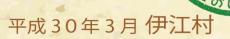


伊江村観光振興基本計画





平成 29 年の沖縄県の入域観光客数は約 940 万人、うち外国人客が約 254万人と5年連続で過去最高を更新しており、世界的な観光・リゾート として高く評価されております。

今後も、平成30年度の入域観光客数目標1,000万人の達成に向け、空 港や港湾などの整備に加え、大型MICE施設などの観光基盤の整備により、 さらなる観光振興が期待されます。



本村は、「夕日とロマンのフラワーアイランド」をキャッチフレーズに、豊かな自然、イベント、 歴史・文化、第一次産業と食、おもてなしの心等、離島の魅力を活かした観光の推進により、近年、 本村を訪れる旅行者数は年間約 13 万人となり、観光が第一次産業に次いで地域経済を牽引する基 幹産業に成長しております。

この度、本村の観光の現状を把握し、民家体験泊の動向、スポーツコンベンションの醸成や外国 人旅行者への対応など取り組むべき課題を分析し、新たな観光情勢の変化等を踏まえ、本村初めて となる「伊江村観光振興基本計画」として、本村が目指す観光のビジョンを明確に示し、時代に即 した観光施策を推進するための中・長期的なマスタープランおよび短期の行動計画であるアクショ ンプランを策定しました。

本計画では、「思い出が咲き誇る島 伊江においでよ!」を観光振興のキャッチフレーズに5つ の基本理念のもと、平成37年度に迎え入れる旅行者数の目標を18万人と定めました。その達成に 向けては、行政・観光関連団体・村民が目標を共有し、相互に連携、協力する協働の取組が重要で あります。

「伊江島に来てよかった、また島に帰りたい」と思って頂けるような、魅力ある観光の村づくり を推進していく所存であります。

結びに、伊江村観光振興推進協議会委員及び部会員の皆様をはじめ、計画策定にご協力を頂きま した関係者の皆様方に心から感謝を申し上げます。

> 平成30年3月 伊江村長 島袋秀幸

第1章	はじめに	_ 1
1 伊汶		. :
1-1	 計画の目的	
1-2	計画の構成	
1-3	計画の位置づけ	
1-4		
2 伊沙	エ村の観光を取り巻く状況	
2-1	ー 1,000 000 000 000 000 000 000 000 000 0	
2-2	テーマ別の動向と伊江村の観光資源・施設等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2-3	伊江村の観光資源・施設等位置図	
2-4	伊江村民の観光に関する主な意向	
2-5	伊江村の観光振興におけるポイント	2
₩ 0 ±		0.0
第2章	マスタープラン	23
1 観:	光振興の方向性	24
1-1	キャッチフレーズ	
1-2	基本理念	24
1-3	数值目標	2
2 観:	光振興の戦略および施策	26
2-1	観光振興戦略	21
2-2	観光振興施策の体系	2
2-3	観光振興施策	
2-4	公共施設の活用方針	3
3 観:	光振興の推進体制	40
3-1	推進体制	41
3-2	計画の進行管理の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
3-3	ロゴマークの設定	
4 伊河	エ村の観光振興の今後の課題	42
生っき	アクションプラン	43
おり早	/ <i>/ / / / / / / / / /</i>	4.
1 P	クションプランの概要	44
1-1	アクションプランの位置づけ	4
1-2	アクションプランにおける重点テーマ	4
2 P	クションプラン	45
2-1	重点テーマ1 [真夏・真冬の観光需要創出]	4
	重点テーマ2 [教育旅行に新しい価値を提供する]	
2-3	重点テーマ3[より多くの人に伊江の魅力を伝える]	54
'Ar yel A=		· ·
沓 料編		6:

第1章 はじめに



伊江村観光振興基本計画とは

1-1 計画の目的

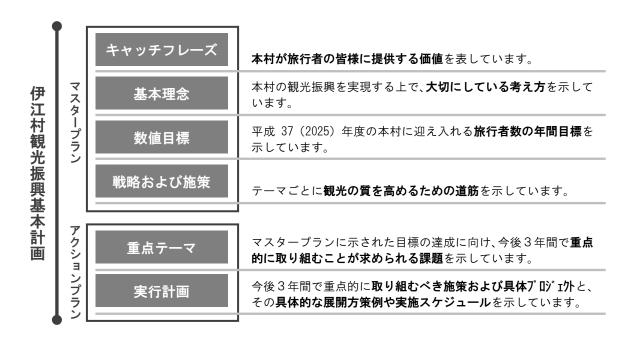
伊江村(以下、「本村」という)では、伊江村第4次総合計画に基づき、自然や文化等、地域特性 を活かした観光産業の振興を推し進める施策を展開しています。

伊江村観光振興基本計画(以下、「本計画」という)は、さらに魅力ある本村の観光の確立に向けて、観光にかかわる各主体が連携しながら観光振興を中長期的に推進するための方向性を示すものです。

1-2 計画の構成

本計画は、本計画の概要や観光を取り巻く状況を整理した「第1章 はじめに」、今後8年間の本村の観光の方向性を示した「第2章 マスタープラン」、マスタープランに沿って今後3年間で重点的に進める具体プロジェクトをまとめた「第3章 アクションプラン」の3つの章で構成されています。

マスタープランおよびアクションプランに示されている主な内容は、以下のとおりです。



なお、本計画では、村民や仕事で訪れる人を除き、余暇活動、教育活動およびスポーツ等、様々な目的で訪れる人を対象として「旅行者」と表記しています。

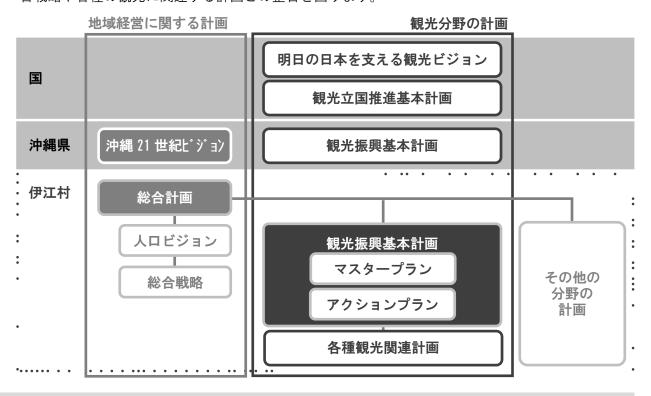
ただし、各種計画・統計等からデータを引用しているものについては、出典先の表現・定義に従うものとし、上記の定義とは対象者の範囲が異なる場合があります。

1-3 計画の位置づけ

本計画のマスタープランは、本村の観光分野の各種計画や取組の指針となるものです。

本村の最上位計画である総合計画や、国・沖縄県の観光に関連する計画との整合を図ります。

また、アクションプランは、本村の観光振興を強力に推進するために、重点的に取り組む具体プロジェクトをまとめ、進捗管理を行うものであり、本村の創生にかかわる重点的な取組を示した総合戦略や各種の観光に関連する計画との整合を図ります。



1-4 計画の期間

本計画のマスタープランの期間は、平成30(2018)年度を初年度とし、本村の最上位計画である総合計画との整合を図るため、次期総合計画(第5次前期基本計画)の計画期間となる平成37(2025)年度までの8年間とします。また、アクションプランは、平成32(2020)年度までの3年間とし、その後は外部環境の変化に応じて更新するものとします。

		年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
沖縄県	沖縄 21 世紀	記ビジョン			基本 後	計画	画					
県	観光振興基	本計画				 基本計画 						
1	整合											
	総合計画			第4次 整 1	▽後期基本	計画 反 明			第5%	次前期基本	本計画	
	観光振興	マスターフ゜ラン										$\qquad \qquad >$
	基本計画	アクションプラン		整合	^1111				<u></u>	*	rt- 10	*
伊	総合戦略			選口	┸╢╟┸			7	下砂块块	の変化は	:応じて	史新
伊 江 村	総合運動公に関する計		施	記整備	整合							
	ハイビスカ に関する計				施設改修							
	はにくすに に関する計			施設	改修							

伊江村の観光を取り巻く状況

2-1 わが国の観光の動向

1) 旅行者の動向

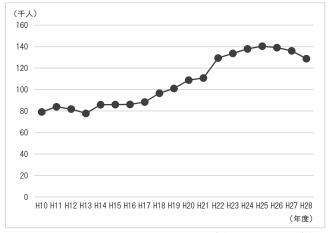
観光庁の旅行・観光消費動向調査によると、近年、■訪日外客数の推移 日本人国内延べ旅行者数(出張・業務含む)は宿泊・ 日帰り旅行ともに概ね横ばいで推移しています。

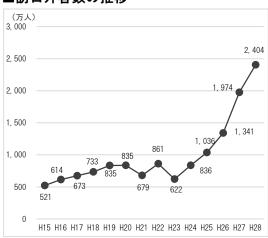
一方、日本政府観光局(JNTO)の訪日外客統計によ ると、訪日外客数は平成23年以降急激に増加し、平成 28 年には約 2,400 万人と5年間で約4倍もの人が訪 れるようになりました。

沖縄県観光要覧(平成28年版)によると、沖縄県に おいても、全体の入域観光客数の伸びに外国客の増加 が大きく影響しており、平成28年度には入域観光客 全体の約4分の1を外国客が占めています(平成25年 度時点では約10分の1)。また、内閣府沖縄総合事務 局の発表によると、本村の対岸に位置し、県内有数の ■海洋博公園入園者数の推移 集客施設である海洋博公園の入園者数も、平成 14 年 度の沖縄美ら海水族館オープン以降、順調に増加して おり、平成28年度には年間489万人が訪れています。

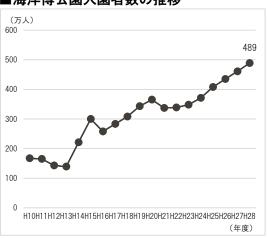
一方、本村では、平成15年度から開始した修学旅行 生の民家宿泊体験事業等の効果により、観光客人員数 が急激に増加していましたが、平成25年度を境に減 少に転じ、平成28年度は約13万人となっています。 また、本村の観光客人員数を月別に見ると、ゆり祭り が開催される4・5月が多く、6月~9月と1月~3 月が落ち込む傾向にあり、夏季にピークを迎える沖縄 県全体の動向とは異なる動きを見せます。

■伊江村の観光客人員数の推移



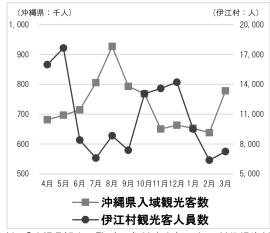


資料:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」



資料:内閣府沖縄総合事務局記者発表資料 (平成29年4月20日)

■沖縄県・伊江村の月別の比較 (平成 28 年度)



資料:伊江村役場資料 資料:「沖縄県観光要覧(平成28年版)」、伊江村役場資料

※沖縄県の入域観光客数:沖縄県に入域する者(沖縄県在住者を除く)全ての人数

※伊江村の観光客人員数:フェリー(いえしま、ぐすく)の観光客人員(=村外人員の 65%+村外車両航送の 65%+団体数)

2) 政策の動向

わが国では、平成 18 年 12 月に、「観光基本法(昭和 38 年制定)」を全面改正し、「観光立国推進基本法」が成立、翌 1 月に施行されました。同法では、少子高齢社会の到来や本格的な国際交流の進展を視野に、観光立国の実現を「21 世紀の我が国経済社会の発展のために不可欠な重要課題」と位置付けるなど、観光立国実現の理念がまとめられました。

その後、戦略的なビザの緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワークの拡大等の改革が進められ、訪日外国人旅行者数は大幅に増加しています。

そうした中、平成28年3月に「観光先進国」を目指す「明日の日本を支える観光ビジョン」が 策定されるとともに、平成29年3月には、同ビジョンを踏まえ、観光はわが国の成長戦略の柱、 地方創生への切り札であるという認識のもと、拡大する世界の観光需要を取り込み、世界が訪れ たくなる「観光先進国・日本」への飛躍を図るべく「観光立国推進基本計画」の変更が行われ、新 たな目標値の設定とともに、さらなる改革が進められています。

■「明日の日本を支える観光ビジョン」・「観光立国推進基本計画」における目標値

	観光立国推進基本計画 明日の日本を支え		る観光ビジョン	
目標年	202	0 年	2030年	
国内旅行消費額	21 兆円	21 兆円	22 兆円	
訪日外国人旅行者数	4,000万人	4,000万人	6,000万人	
訪日外国人旅行消費額	8兆円	8兆円	15 兆円	
訪日外国人リピーター数	2, 400 万人	2, 400 万人	3,600万人	
訪日外国人旅行者の 地方部における延べ宿泊者数	7, 000 万人泊	7, 000 万人泊	1億3,000万人泊	
アジア主要国における	3割以上·			
国際会議の開催件数に占める割合	アジア最大の開催国			
日本人の海外旅行者数	2,000万人	_	_	

資料:「明日の日本を支える観光ビジョン」、「観光立国推進基本計画」

沖縄県においても、観光を県経済のリーディング産業と位置づけており、「沖縄 21 世紀ビジョン」で掲げる「世界水準の観光リゾート地」の実現に向けて、沖縄観光が国内外に広く認知される基盤を構築することを目的とした「第5次沖縄県観光振興基本計画」が、平成29年3月に改定されました。同計画では、那覇空港の滑走路増設後の運用時間の拡大を見据えたさらなる航空路線誘致や、国内外からのクルーズ船の戦略的な誘致等の方向性が示されており、本村と本島をつなぐ本部港においても国際クルーズ拠点形成が計画されています。また、国営沖縄記念公園海洋博覧会地区(海洋博公園)については、同地区の拠点機能の充実に向けた、新たな観光ルートの形成等の取組を促進する方向性が示されています。

3) 社会の動向

わが国では、経済低迷による企業の財務体制の弱体化や国民の価値観・ライフスタイルの変化等が進む中で、会社の慰安旅行等の団体旅行が減少し、家族や友人・知人等と出かける個人・小グループでの旅行が増加してきました。

また、インターネットや SNS (ソーシャル ネットワーキング サービス)の普及により、観光に関する情報を個人が手軽に入手・発信できるようになったことで、旅行者は個人の好みや興味にあわせて自由に旅行を計画できるようになった一方、観光地には他との差別化、情報戦略等、新たな取組が求められています。

移動環境では、航空自由化に伴い、格安の運賃を可能としたLCC(ロー コスト キャリア)の普及が進み、飛行機利用の新たな需要が掘り起こされました。

2-2 テーマ別の動向と伊江村の観光資源・施設等の状況

1) 文化・歴史・学び

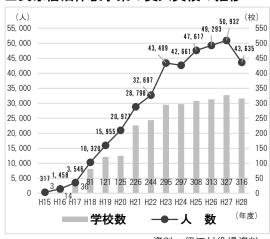
(1) 旅行者の動向

(公財) 日本交通公社の旅行年報によると、近年の国内の旅行においては、「おいしい食べ物」 「温泉」「文化的な名所」の3つが最も楽しみにしていたことの上位を占めることが多く、文化的 な資源は、外すことのできない重要な観光要素と考えられます。また、旅行口コミサイトで、外 国人旅行者に人気のスポットとして、伏見稲荷神社や厳島神社、広島平和記念資料館等が上位と なるなど、外国人旅行者においても、日本の文化・歴史を感じられる旅行の人気がうかがえます。

国内の教育旅行の状況を見てみると、(公財)日本修学旅行協会の国内修学旅行調査によると、 沖縄県は、国内の修学旅行先として近年最も多くの高校から選ばれています。

また、活動内容では、高校・中学校ともに歴史学習 ■民家宿泊体験事業の受入実績の推移 に重点をおいた活動が非常に高い割合を維持してい ますが、一方で、近年、高校では生業・暮らし体験、 中学校ではキャリア体験を重視した活動等の割合が 増える傾向も見られます。

本村では、平成15年度から修学旅行生を対象とし て、民家での交流や受入民家の家業(農業・漁業・商 業 等) の手伝い・体験の中でありのままの島人の暮 らしを味わえる民家宿泊体験事業に取り組んでおり、 受入実績は、平成27年度までは順調に増加し5万人 を超えましたが、平成28年度には減少に転じました。



資料:伊江村役場資料

(2) 政策の動向

わが国では、人口急減・超高齢化という課題に対し、地域がそれぞれの特徴を活かした自律的 で持続的な社会を創生することを目指す地方創生が進められており、地域固有の資源を活かした 観光交流人口の増加による地域活性化等への取組が各地で加速しています。

一方、教育分野に目を向けると、21 世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を 実行していくことが経済再生に並ぶ国の重要課題だとして、「教育再生実行会議」が設置され、 「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育の在り方」等について議論が行わ れており、「アクティブ・ラーニング」の重要性等が指摘されています。

また、沖縄県は、平成29年5月に「沖縄における教育旅行民泊取扱指針」を定め、沖縄県独自 の教育旅行民泊ブランドの構築を目指しています。

(3) 社会の動向

わが国では、従来の物見遊山的な観光旅行に対して、これまで観光資源としては気付かれてい なかったような地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行形態を 促進する動きが見られるようになりました。

また、観光庁ではモノ消費からコト消費に移行している外国人旅行者の旅行需要に応えるため、 VR(仮想現実)や AR(拡張現実)等を活用した観光を推進しており、昔の生活や情景を書き記し た歌碑や一部のみが現存する遺跡等、その場に行くだけではその価値や魅力が十分には伝わりづ らかった歴史的な資源の新たな楽しみ方を提供できる可能性が広がっています。

(4) 伊江村の観光資源・施設等の状況

① 文化財

本村には国指定文化財 1 箇所(史跡)、県指定文化財 4 箇所(史跡 3、名勝 1)のほか、村指定 文化財が 10 箇所(史跡 4、名勝 1、有形民俗文化財 4、天然記念物 1)あります。

また、先人の遺した貴重な芸能である「伊江島の村踊」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。本村では、昭和 48 年に村民俗芸能保存会を結成し、数多い二才踊りや組踊「忠臣蔵」等が今なお保存・継承されており、昭和 55 年以降からは、村内 8 区持ち廻りで毎年 11 月に開催される民俗芸能発表会で村踊を演じ、後世に島独特の素晴らしい芸能を伝承しています。









ゴヘズ洞穴遺跡

湧出

マーガ

阿良御嶽

■伊江村の文化財

	I have a see store	15-5-5-	
文化財名	指定の種類	指定年月日	所在
伊江島の村踊	国指定重要無形民俗文化財	平成10年12月16日	_
具志原貝塚	国指定史跡	昭和61年6月9日	川平下原
鹿の化石	県指定史跡	昭和31年10月19日	東江上カダ原
浜崎貝塚	県指定史跡	昭和48年2月22日	東江前浜崎原
ゴヘズ洞穴遺跡	県指定史跡	昭和52年5月9日	西江上ゴへズ原
城山	県指定名勝	昭和42年4月11日	東江上グスク原
公益質屋跡	村指定史跡	昭和52年12月14日	東江上 75
権現堂跡	村指定史跡	昭和52年12月14日	西江前 1189
会所跡(クェージュ)	村指定史跡	平成14年3月14日	西江上 18-1 の一部
組踊「忠臣蔵」作者 上地太郎生誕の地	村指定史跡	平成14年3月14日	東江上 210 の一部
湧出	村指定名勝	昭和52年12月14日	東江上イヌガ原
マーガ	村指定有形民俗文化財	昭和52年12月14日	川平 63
阿良御嶽	村指定有形民俗文化財	昭和52年12月14日	東江前 687
ミンカザントゥ	村指定有形民俗文化財	昭和52年12月14日	川平 887
アミボーシャ	村指定有形民俗文化財	平成21年4月1日	西江前 1736 の一部
ハダ植物群落	村指定天然記念物	昭和52年12月14日	東江上カダ原

資料:伊江村役場資料

② 歌碑

本村では、島に伝わる民謡や舞踊曲、顕彰碑等を建立し、後世へ島の歴史を伝えています。昭和 62 年度から始まり、現在は 21 基の碑が建立されています。平成 12 年度と平成 13 年度には「伊江島の村踊」国指定記念事業として、ヤマト系芸能の歌碑を建立しました。

③ 戦跡等

本村には、世界的に有名な従軍記者アーニー・パイルの戦死の地に米軍によって建てられた「アーニー・パイル記念碑」や米軍演習に対して島民で団結して戦うために造られた青年たちの教育の場「団結道場」、第二次世界大戦時に激戦の末、爆雷で自爆し村民約150人の尊い命が失われた防空壕「アハシャガマ」等、戦争の歴史を学ぶことができる資源が残っています。







アーニー・パイル記念碑

団結道場

アハシャガマ

■伊江村の戦跡

戦跡名	所在
LCT 慰霊碑	川平
アーニー・パイル記念碑	川平
ニャティヤ洞	川平
団結道場	西江上
第 502 特設警備工兵隊出擊之地	真謝
アハシャガマ	東江前
芳魂之塔	西江前

資料:伊江村役場資料

④ 体験·学習施設

伊江島蒸留所は、伊江島のサトウキビの搾り汁からつくられるラム酒蒸留所で、予約制で団体 見学の受入も行っています。

⑤ 景観その他資源

標高 172mの城山は沖縄八景にも選ばれている村民の信仰の対象で、本村のシンボルであり、 本村のほとんどの位置から眺めることができます。山頂からは 360 度のパノラマが広がり、村全 体、水納島や瀬底島等の周辺の島々までをも望むことができる優れた眺望点となっています。

また、本村は平地が広がっているため、どこからでも美しい夕日を見ることができますが、特にリリーフィールド、城山、西崎等から眺める夕日が美しいと言われています。

さらに、本村では、農作物の保護のため、防風林の機能を持つフクギやモクマオウ、クロキ並 木が形成されており、本村らしい景観を形成しています。

この他、北海岸に面する観光名所「湧出」付近にある岩が、映画に登場するキングコングに勝るとも劣らない風格で鎮座していることから「ゴリラ岩」と言われ、新たな観光資源として注目されるなど、散策しながら楽しめる資源があります。



城山



城山からの眺め



フクギ並木



クロキ並木と海への眺望

2) フラワー

(1) 旅行者の動向

桜を愛でる花見、紅葉狩りに代表されるように、わが国では、古くから四季折々の自然の移ろ いを楽しむ文化が根付いています。

近年、茨城県の国営ひたち海浜公園内にある「みはらしの丘」一面に広がるネモフィラやコキ ア等の景観が国内のみならずアジア圏を中心とした海外でも評価され入園者数が急増したこと で注目を集めるなど、花を楽しむ旅行は外国人旅行者にも人気となっています。

本村では、沖縄の温暖な気候を活かして、日本一早いゆり祭りとして、4月下旬から5月上旬 にかけてリリーフィールド公園を会場に「伊江島ゆり祭り」を開催しており、毎年3万人を超え る人が楽しんでいます。

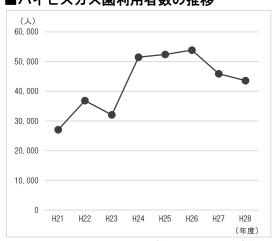
また、1,000種余の品種を有するハイビスカス園には、近年5万人を超える利用者が訪れてい ましたが、平成 26 年度を境に減少に転じ、平成 28 年度は 43, 594 人となっています。

■伊江島ゆり祭り来場者数の推移

(人) 36, 000 35, 000 34, 000 33 000 32 000 31, 000 30,000 29, 000 28, 000 27 000 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28

資料:伊江村役場資料

■ハイビスカス園利用者数の推移



資料:伊江村役場資料

(2) 政策の動向

平成 23 年に、沖縄県の日本風景街道としては2ルート目となる「やんばる風景花街道」が登録 されました。本街道は、名護市仲尾次から国頭村奥へ繋がる国道 58 号、本島北部東海岸の県道 70 号線および国道 331 号を中心としたエリアで、通過するためだけの「みち」ではなく「沖縄の 花と美」が体感できる新しい観光街道の創出を目指し、観光振興と地域活性化が図られています。

また、平成29年3月に改定された「第5次沖縄県観光振興基本計画」では、国営沖縄記念公園 海洋博覧会地区(海洋博公園)拠点機能の充実に向けた、新たな観光ルートの形成等の取組を促 進する方向性も示されており、「花」をテーマとして、やんばるで連携した取組の可能性も広がっ ています。

(3) 社会の動向

平成 29 年に「インスタ映え」が流行語大賞を受賞するなど、近年は写真に映える観光資源が人 気を集めており、色鮮やかな花も重要な観光要素となる可能性が広がっています。

沖縄リゾートウエディング統計調査によると、沖縄県では、近年、リゾートウエディング実施 組数が急増しています。中でも、挙式は挙げず海や城跡等のロケーションで写真を撮る「フォト ウエディング」の割合が年々増加傾向にあり、全体の約30%を占めています。沖縄県では海がロ ケーションの中心となっていますが、全国的には、花畑等での撮影も人気となっています。

(4) 伊江村の観光資源・施設等の状況

① 伊江村の花・木

本村では、テッポウユリを村花、ハイビスカスとサルスベリを村花木、ガジュマルを村木として定めています。

また、本村は花き栽培が盛んです。夜間に電照を行う栽培手法で菊を育てており、本部町から本村を見ると光で島が浮き上がる独特の夜間景観が冬の風物詩となっています。

盛夏を除いて様々な花が咲くのも本村の特徴で、島に春の訪れを告げるマーナ(和名:ハマカブラ)、のほか椿、アマリリスが春先にかけて咲くほか、夏にはヒマワリやサルスベリ、秋には、菊やブーゲンビリア、冬にはスイセン等、様々な花が咲きます。

マーナ(和名:ハマカブラ)のチャンプルや、安眠やリラックスに効果があるとも言われているクワンソウ(和名:アキノワスレグサ)を使った料理等、本村では、花を食材としても楽しむ 文化が残っています。







テッポウユリ

ハイビスカス

電照菊

② リリーフィールド公園

本村の北海岸沿いに美しい海色を背景にして広がる約2万6,000坪のリリーフィールド公園には、村花であるテッポウユリや世界のユリが咲き誇ります。公園の東側にはハダ植物群落や、カダ原洞穴があり、公園内には展望台等も設置されています。

毎年4月下旬から5月上旬にかけて開催される伊江島ゆり祭りは、平成29年で22回を数える 人気のお祭りです。

③ ハイビスカス園

ハイビスカス園では、本村で独自に交配したオリジナル品種をはじめ、コーラルタイプやオールドタイプ、ハワイアンタイプ等、1,000 品種余のハイビスカスが栽培されています。施設内には、その他、様々な野鳥を観察できる「野鳥の森」や、蓮や睡蓮が咲く「水鳥の池」もあります。本村では、このハイビスカス園を、来場者の方にもっと楽しんでいただけるような施設とするため、リニューアルに向けた検討を進めています。

毎年2月に開催されるイージマチューパンジャまつりでは、産業まつり等と合同でハイビスカス祭りも開催され、ハイビスカスの押花や織物教室を楽しむことができます。

3)スポーツ・アウトドア

(1) 旅行者の動向

スポーツの状況を見てみると、わが国では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大 会の開催が決定したことを受け、スポーツを通じた国際貢献(Sport for Tomorrow)や、事前キ ャンプの受入等を行うホストタウンの推進等の大会参加国・地域の方々との交流等が進められて います。日本政府観光局(JNTO)の国際会議統計によると、わが国で開催されるスポーツに関す る国際会議件数も、平成 26 年まで 10 件未満だったのが、平成 27 年 19 件、平成 28 年 17 件とこ こ数年大幅に増加しています。

沖縄県においても、近年スポーツコンベンション **■伊江島一周マラソン大会参加者数の推移** の開催が盛んであり、沖縄県スポーツコンベンショ ン開催実績一覧(平成27年度版)によると、キャン プ合宿・自主トレや大会については、リオ五輪開催や 東京オリンピック誘致等の動きなど、イベントにつ いては、既存のスポーツイベントに加え地域活性化 を目的とした交流型のイベントが増加したことなど が増加の要因として挙げられています。

3, 000 2,500 2.000 1,500 1,000 500 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回 第24回

資料:伊江村役場資料

H23 H24 H25 H26 H27 H28

本村では、総合運動公園の整備を進めており、今後、野球や陸上競技等でのスポーツ合宿利用 が期待されます。また、スポーツイベントとしては、毎年4月に伊江島一周マラソン大会を開催 しており、2,500人前後の参加があります。

また、沖縄県観光統計実態調査によると、海水浴・マリンレジャーといった活動は、県外客の 3割近くが楽しんでいます。ダイビングは、県外客全体に対する割合は高くはありませんが、リ ピート率が非常に高くなっています。本村周辺の海にも多くのダイビングスポットがあり、ダイ バーに親しまれています。

一方、アウトドアでは、近年、第3次キャンプブームが到来したと言われています。オートキ ャンプ白書 2017 によると、平成 27 年に 12 年ぶりにオートキャンプ参加人口が 800 万人を超え、 平成28年には830万人となっており、その増加にはビギナー層の増加が大きく寄与しています。 本村には、ビーチやキャンプ場を備えた伊江村青少年旅行村があり、平成28年度の利用者数(村 民利用含む) は年間 36,319 人となっています。

(2) 政策の動向

沖縄県では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も見据え、沖縄の魅力を最大 限に活かしつつ、今後のスポーツコンベンション誘致を効果的・計画的に行うための「沖縄県ス ポーツコンベンション誘致戦略」が平成27年3月に策定されました。本戦略では、県やスポーツ コミッション沖縄が大きな大会や合宿誘致の先導として動いていくとともに、スポーツコンベン ションの主催者と、受入の現場を担当する市町村の接点を構築し、人脈形成を強化することで、 新たなコンベンションの開催へと繋げていくなどの方向性が示されています。

(3) 社会の動向

スポーツ界では、オリンピック等に向けトップアスリートの育成・強化が進められる一方、(一 社)世界ゆるスポーツ協会の進める年齢・性別・運動神経にかかわらず、だれもが楽しめる新ス ポーツが話題となるなど、スポーツの様々な楽しみ方が生み出されています。

(4) 伊江村の観光資源・施設等の状況

① スポーツ資源・施設

本村では、伊江村青少年旅行村に隣接する野球場、アスレチック広場、陸上競技場等をもつ総合運動公園の整備が進められており、平成 28 年4月にはRC造ドーム型の多目的屋内運動場が完成しました。本運動場は、村民のゲートボール大会やプロ野球の自主トレ、社会人野球等の合宿地等として利用されるなど、スポーツ交流の場として活用されています。

伊江島カントリークラブは、沖縄県内のショートコースでは最長コースのゴルフ場です。パー58、18 ホールのショートコースをメインに、第1日曜日、第2・第4 土曜日はパー72(9 ホール2回まわり)の本格的なロングコースも楽しめます。平成28年(期)の伊江島カントリークラブの利用者数は年間12,314 人となっています。

また、本村周辺の海は、洞窟やトンネル、 リーフ等、様々な地形が見られ、シモフリタ ナバタウオ等の珍魚も見られるなど、魅力的 なダイビングスポットとなっています。





伊江島カントリークラブ

ダイビングスポット

さらには、視界をさえぎるものが少なく平坦な道等、爽やかな風を感じながらサイクリングを 楽しめる環境もあります。

② スポーツイベント

毎年4月には、伊江島一周マラソン大会が開催されます。

旧暦の5月4日に開催される海神祭は、海の神様に感謝し安全航海・大漁を祈願するための祭りで、サバニと呼ばれる伝統漁船を使ったハーリー(パーリ)と呼ばれる競漕(レース)が繰り広げられます。





伊江島一周マラソン大会

③ アウトドア資源・施設

本村には、伊江ビーチ等の海水浴場、キャンプのできる伊江村青少年旅行村があります。 この他、白い砂浜や森林を馬に乗って散策できる乗馬体験等も楽しめます。







伊江村青少年旅行村

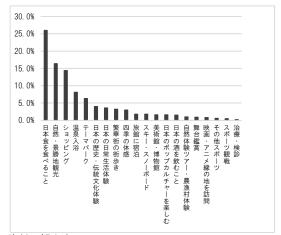
4) フード(食)

(1) 旅行者の動向

(公財)日本交通公社の旅行年報によると、近年の国内の旅行においては、「おいしい食べ物」と「温泉」が最も楽しみにしていたことの1位2位を争う状況であり、魅力的な食を提供することは、観光振興に必要不可欠な要素となっています。

観光庁の訪日外国人消費動向調査によると、訪日 外国人が日本を訪れる前に最も期待していたことの 1位も「日本食を食べること」となっており、国内外 を問わず、「食」が旅行の大きな目的となっているこ とがわかります。

■訪日前に最も期待していたこと (単数回答)



資料:観光庁

「訪日外国人消費動向調査(平成28年 年次報告書)」

(2) 政策の動向

「観光立国推進基本計画」では、「我が国の伝統ある優れた食文化その他の生活文化、産業等の紹介の強化、我が国又は地域の特色を生かした魅力ある商品の開発」として、クールジャパンの海外展開、日本文化に関する情報の総合発信、日本食・日本食材等の海外への情報発信等を進めることとしています。

一方、沖縄県では、近年、ライフスタイルや価値観の多様化等に伴い、食を取り巻く環境が大きく変化したことや、食文化を支える人材の高齢化や年中行事の簡略化等による行事食の衰退、若い世代を中心とした伝統料理離れが進んだことなどにより、「沖縄の伝統的な食文化」が失われつつあります。そのため、平成28年度に「沖縄の伝統的な食文化普及推進計画」が策定され、沖縄の伝統的な食文化の保存・普及・継承が推進されています。

(3) 社会の動向

平成25年に、「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」が、「和食;日本人の伝統的な食文化」としてユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、日本の食文化は世界でも高く評価されています。

また、沖縄県では、ユネスコ無形文化遺産登録推進委員会を中心に、他の地域や他国に類例を 見ない琉球の食文化を次の世代に保護し、伝承し、継承していくことが必要として、「琉球料理」 及び黒麹菌による「琉球泡盛」文化圏のユネスコ無形文化遺産登録を目指す動きが見られます。

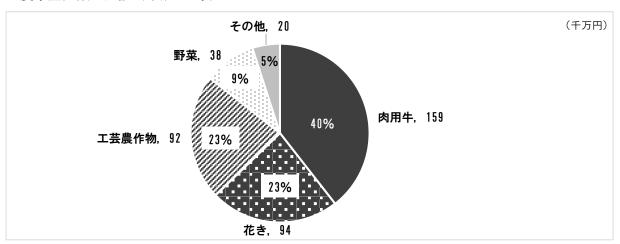
(4) 伊江村の観光資源・施設等の状況

① 農林水産業

本村は、総面積の約半分となる 1,090ha を耕地とし、気候特性を活かして花き、葉たばこ、サトウキビ等の農産物、子牛生産を中心とする畜産等の展開を行っており、平成 27 年の農業産出額は 403 千万円です。輪ぎく・小ぎく・スプレーぎく、モンステラ(切り葉)、とうがん、島らっきょう、肉用牛(子牛)は拠点産地として沖縄県の認定を受けています。

平成 27 年の漁獲量は 410t で、そのうちソデイカ等のいか類が 240 t で最も多く、次いでパヤオを利用したまぐろ類が 92t となっています。ミーバイ(ヤイトハタ)やタマン(フェフキダイ)の養殖も行われており、年間 3 t 程の水揚があります。

■農業産出額の内訳(平成27年)



資料:農林水産省「わがマチ・わがムラ」

② 特産品

本村では、伊江島で収穫されたサトウキビを使用した「黒糖」「イエラムサンタマリア」、ピーナッツを使用した「黒糖ピーナッツ」「塩茹でじーまみ」「じーまみ甘納豆」、伊江島の北海岸の「湧出」の湧水等の地元沖縄県産原料にこだわった「イエソーダ」、伊江島産の牛乳を使用した「伊江島アイスクリーム」、伊江島らっきょうを使用した「伊江島らっきょうドレッシング」「いえぎょうざ」、伊江島小麦を使用した「ケックン」「麦こがし」や、イカ墨を使用した「イカ墨ぎょうざ」「イカ墨じゅーしい」等、様々な特産品が開発されています。

また、本村は全国的にも優良な黒毛和牛の子牛の生産地としても評価を得ています。



③ 郷土料理

本村では、昔、主食として甘藷が食べられていました。甘藷は生産高が高く、自給自足ができるほどで、外へ移出もしていました。島では澱粉をとり、その粕は丸く握って乾燥させ芋粕として貯蔵し、飢餓年には芋粕を臼でついて粉にし、粟や麦とまぜて食べて凌いでいたと言われています。

副食で一番食べられていたものは、海産物で、肉食では豚肉が食べられていました。

野菜では、島大根やスィブル(夕顔)、シブイ(冬瓜)等あまり手のかからない作物が好んでつくられており、豆類も種類が多く量産されていました。各家庭に豆腐臼があるなど、大豆を利用して、豆腐や味噌は家庭でつくられていました。スィンヌク(さといも)は、子どものおやつとして食べられていました。

祭事の食事では、伝統的な島最大の行事である大折目の富里祭儀に出される七品七御膳等があります。また、行事やお祝いの時は、海辺で取れる浜ごぼうや浜人参のてんぷらがご馳走として食卓に並びました。

■日常の食事(例)

料理名	主材料	備考
葛餅、パンピン(半片)、プットルー	甘藷(澱粉)	
雑炊、ソテツ汁	蘇鉄	
ウンニ	芋	芋をこま切れにして煮てつぶしたも
		の
地漬け	大根	黒糖を使った漬物
マンジュ餅	蜿豆	
スーネー	アハマミ(あづき)	
	の若葉	
ハチャグミ菓子	ウグマ(胡麻)	砂糖と煮詰めてつくったお菓子

■祭事の食事(例)

料理名	祭事名
〈七品七御膳〉	大折目 富里祭儀※
お茶(黍の実)、煮餅、豆腐、なまにしちゅぢ(生餅)、んしゃふ(御	
酒)、くさぎな(木の葉)、栗御粥	
浜ごぼう、浜人参のてんぷら	行事やお祝い

※大折目 富里祭儀:東の火神と西の火神をとおしてニレの神を歓待する祭事のこと

資料:「伊江村史」

5) 受入環境

(1) 旅行者の動向

日本政策金融公庫が平成 25 年に行った「国内宿泊施設の利用に関する消費者意識と旅館業の経営実態調査」によると、最も多く行っている宿泊施設の予約方法(単一回答)は、「宿泊サイト(45.3%)」「宿泊施設に直接申し込む(インターネット)(33.1%)」「宿泊施設に直接申し込む(電話、FAX)(10.8%)」「旅行代理店(9.5%)」の順となっており、インターネットの普及が旅行手配方法に大きく影響しています。 ■施設タイプ別客室稼働率の推移

また、観光庁の訪日外国人消費動向調査によると、 訪日外国人の団体ツアー参加の割合は、平成 23 年 (25.1%) から平成 28 年 (20.7%) にかけて 4.4 ポ イント減少しており、個人旅行の割合が増加してい ることがわかります。

さらには、近年は、外国人旅行者の急増を受けて、 宿泊施設の客室稼働率が増加傾向にあり、観光庁の 宿泊旅行統計調査によると、平成28年の客室稼働率 は全体で59.7%となっており、施設タイプ別では、 ビジネスホテル、リゾートホテル、旅館において、平 成22年の調査対象拡充以降の最高値となりました。

90. 0% 80. 0% 70. 0% 60. 0% 40. 0% 30. 0% 20. 0% 10. 0% H24 H25 H26 H27 H28

- 旅館

資料:観光庁「宿泊旅行統計調査

全体

(平成 28 年・年間値(確定値))」

(2) 政策の動向

近年、民泊サービス(住宅を活用して宿泊サービスを提供するもの)が世界各国で展開されており、わが国でも外国人旅行者の増加等に伴い、急速に普及していますが、一方で、民泊サービスに起因した近隣トラブル等も少なからず発生し社会問題となっています。そうした背景から、民泊サービスの提供に関して一定のルールを定め、健全な民泊サービスの普及を図るための住宅宿泊事業法が平成30年に施行予定となっています。

また、本村と本島をつなぐ本部港では、フェリー利用客のマイカーや旅行者が乗り入れるレンタカーで常に満車状態が続くなど、慢性的な駐車場不足が問題となっていましたが、沖縄県において、立体駐車場を整備する計画が進められています。

(3) 社会の動向

平成 29 年 12 月に本村で海洋博公園来場者を対象として実施したアンケート調査では、旅行先を選ぶ際のハードルについて、「交通の便が悪い」の割合が 30.9%と最も高く、次いで「インターネットや雑誌で事前に得られる情報が少ない」が 23.2%と続きました。

本村では、島へのアクセスがフェリーに限られることや、移動・宿泊・体験等の旅行の各プロセスにおける情報提供が十分ではないことなど、旅行者に選ばれる旅行先となるために改善すべき課題が多くあります。

また、観光庁の「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関するアンケート」によると、訪日外国人旅行者が旅行中困ったこと(複数回答)は、「施設等のスタッフとのコミュニケーション」が最も多く、次いで「無料公衆無線 LAN 環境」「多言語表示の少なさ・わかりにくさ」となっており、情報面でのバリアフリーが求められています。

(4) 伊江村の観光資源・施設等の状況

① 案内基盤

本村の観光情報を発信する HP は、村役場 HP、伊江島観光協会の運営する HP「ぐるり伊江島」、 民営の HP「伊江島体感ツアー」等があり、各サイトとも飲食、宿泊、レジャー、観光スポットの 紹介を行っています。その他、各種事業者の HP において各自の事業と関連する観光情報を発信 しています。また、民営の「体感!伊江島ガイドアプリ」等も提供されています。

本村の玄関口である伊江港にある「はにくすにホール」内には観光案内所があり、伊江島観光協会が運営しています。

観光案内所等では、村役場が発行する村内の観光情報を紹介したマップや、伊江村商工会が発行する村内の食事処を中心に紹介した「いえじまっぷ」を無料で配布しています。

村内を巡る際には、伊江港等に観光スポットを紹介した看板が設置されているほか、各種観光スポットには、観光案内サインを整備していますが、旅行者からは観光スポットまでの道の案内がわかりづらいという声もあり、課題が残っています。また、1日1団体限定で、本村の見所をご要望に応じて案内するガイド等も民間事業者によって行われています。

② 交通基盤

本島と本村をつなぐフェリーは、626 人定員の「いえしま」、458 人定員の「ぐすく」があり、本部港と伊江港を30 分で結ぶ 定期航路が日に4 便運航しています。

村内の移動手段は、フェリーの時刻等にあわせて運行される 路線バスのほか、観光バス、タクシー、レンタカー、レンタバ イク、レンタサイクル等があります。



いえしま



ぐすく

■交通基盤の概要

交通基盤	運営	概要
フェリー	伊江村	【乗船定員】いえしま 626 人、ぐすく 458 人
		【車両積載可能量(普通乗用車5m未満想定)】
		いえしま 41 台、ぐすく 33 台
		【運航時刻】
		伊江港発:8:00, 10:00, 13:00, 16:00
		本部港発:9:00, 11:00, 15:00, 17:00
		※伊江島一周マラソン大会、ゆり祭り、夏期、旧盆、年末年始等
		は増便対応
路線バス	民間事業者	月~金曜日:8便、土日祝祭日(学校休校日):6便
		※フェリーの時刻や、小中学校の児童・生徒の登下校等の時刻に
		あわせて運行
観光バス	民間事業者	予約制の観光バス(時間:2時間30分)
タクシー	民間事業者	送迎利用のほか、貸切の観光コースもあり
レンタル	民間事業者	レンタカー、レンタバイク、レンタサイクル
		※貸出時間は、複数の時間設定あり

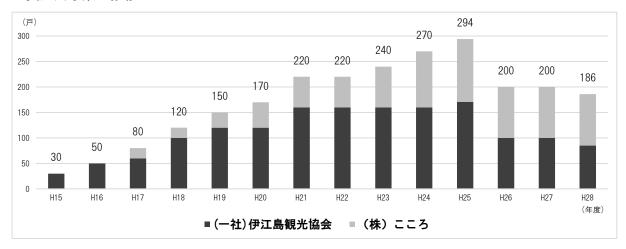
資料:伊江村役場資料、事業者 HP

③ 滞在基盤

本村の宿泊施設は、ホテル1軒、民宿17軒、収容人員486人となっています。家族のように温かく迎え入れる対応や島ならではの食事で評価を得る宿泊施設が多くある一方で、バスタブなしの共同のバス・トイレや、インターネット予約やカード決済環境の未整備、バリアフリー化への未対応等、多様化する旅行者のニーズに対応しづらい状況にある宿泊施設も多くあります。

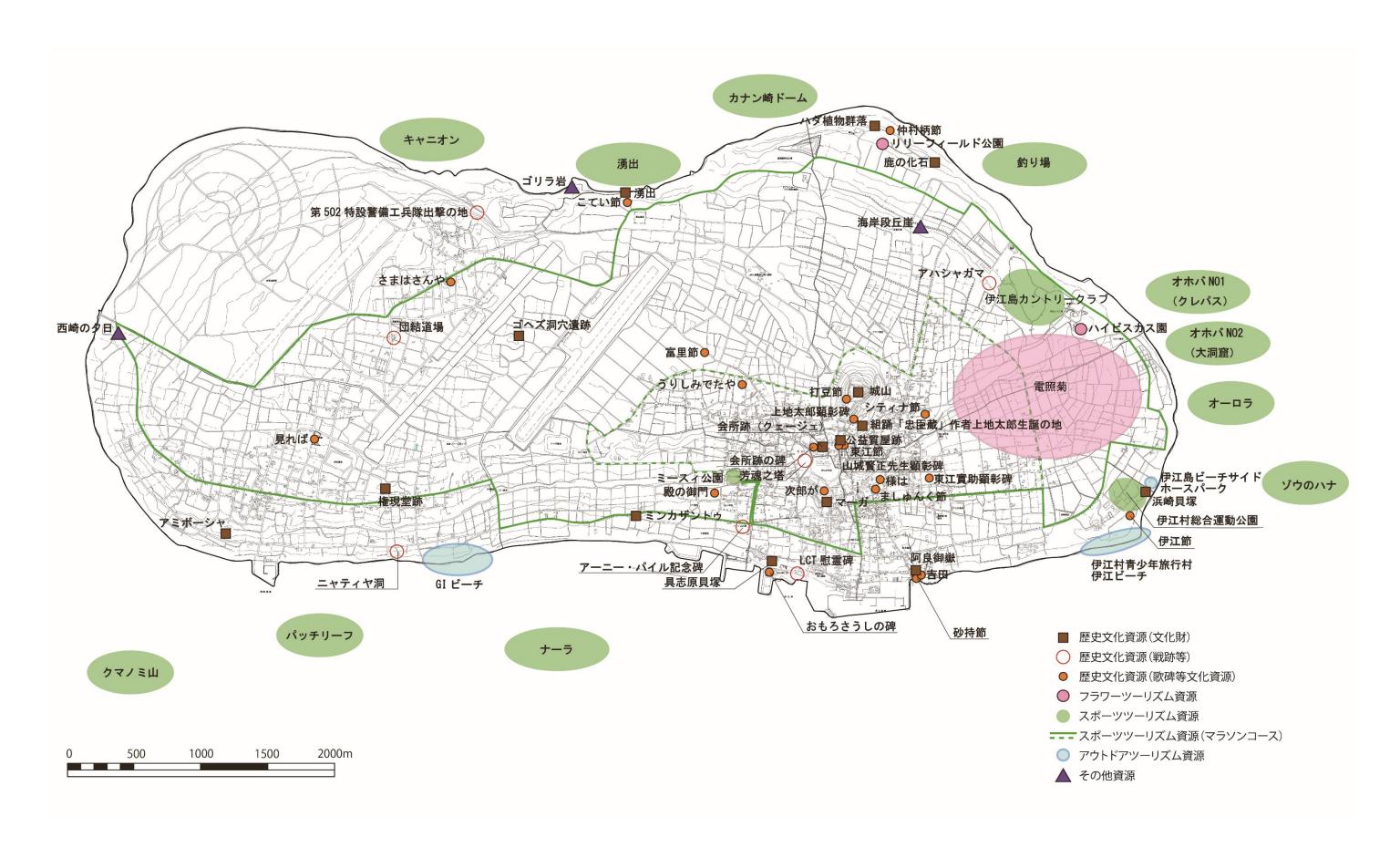
宿泊施設のほか、民家での修学旅行生を対象とした民家宿泊体験事業の受入を行っており、受入民家数は平成28年度では186戸で、最も多い平成25年度と比較して、3分の2程度まで減少しています。

■受入民家数の推移



資料:伊江村役場資料

2-3 伊江村の観光資源・施設等位置図



2-4 伊江村民の観光に関する主な意向

本計画を策定するにあたり、本村の観光振興に関する村民の意向を把握するアンケート調査を実施しました。

1)調査概要

対象	実施期間	実施方法	配布数 有効回答数 回収率
伊江村にお住まいの 世帯 (自治会加入世帯)	平成 29 年 11 月 21 日 ~12 月 4 日	組長より各世帯にアンケート票 を配布・回収	配布数:1,885票 有効回答数:885票 回収率:46.9%

2) 主な結果

(1) 伊江村の観光の方向性について(単数回答)

		票数	構成比
1	今よりも多くの人が訪れて、賑わった方が良い	393	44. 4%
2	今くらいがちょうど良い	418	47. 2%
3	観光客はもっと少なく、落ち着いていた方が良い	62	7. 0%
	無回答	12	1. 4%
	母数	885	100.0%

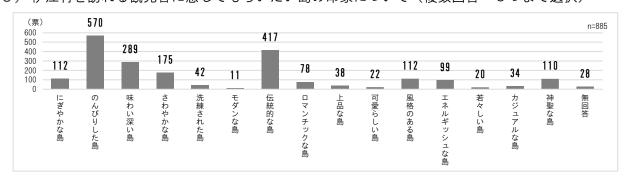
「今くらいがちょうど良い」の割合が47.2%と最も高く、次いで「今よりも多くの人が訪れて、賑わった方が良い」が44.4%で続いています。

(2) 伊江村における外国人旅行者への対応について(単数回答)

		票数	構成比
1	より多くの外国人旅行者に来てもらえるよう、島内の環境を 整えるべき	210	23. 7%
2	積極的に取り組まなくても良いと思うが、訪れた外国人旅行 者が不便にならないようにしておくべき	532	60. 1%
3	外国人旅行者に特別な対応をする必要はない	105	11. 9%
4	その他	16	1. 8%
	無回答	22	2. 5%
	母数	885	100.0%

「積極的に取り組まなくても良いと思うが、訪れた外国人旅行者が不便にならないようにしておくべき」の割合が 60.1%と半数以上を占めています。

(3) 伊江村を訪れる観光客に感じてもらいたい島の印象について(複数回答:3つまで選択)



「のんびりした島」が 570 票と最も多く、次いで「伝統的な島」が 417 票、「味わい深い島」が 289 票で続いています。

2-5 伊江村の観光振興におけるポイント

本村の観光を取り巻く状況を踏まえた観光振興を進める上でのポイントを以下に示します。

〇真夏・真冬の需要を呼び起こすことによる通年での旅行者受入の推進

本村の観光は、ゆり祭りや修学旅行に支えられるところが大きく、それらの需要が減る真夏・真 冬に観光客数が落ち込む傾向にあります。

これらの時期の観光需要を呼び起こすようなサービスを検討することで、通年で楽しんでもらえる島としていく必要があります。

○教育旅行の動向や民泊の法改正等を踏まえた、教育旅行の維持・強化

わが国では、21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を実行していくことが経済再生に並ぶ国の重要課題とされ、「アクティブ・ラーニング」の重要性等が指摘されるなど、学校教育を取り巻く環境が大きく変化しつつあります。

そうした中、沖縄県は、平成29年5月に「沖縄における教育旅行民泊取扱指針」を定め、沖縄県独自の教育旅行民泊ブランドの構築を目指しています。

本村では、民家宿泊体験事業が多くの学校の支持を集め順調に受入数を伸ばしてきましたが、近年、受入数・受入民家数ともに減少傾向にあります。

一方で、わが国では外国人旅行者の増加等に伴い、民泊サービス(住宅を活用して宿泊サービスを提供するもの)が急速に普及する中、それに起因する近隣トラブル等が発生していることなどを受け、健全な民泊サービスの普及を図るための住宅宿泊事業法が平成30年に施行予定となるなど、受入体制にも新たな対応が求められています。

本村が、教育旅行の地として選ばれ続けるために、これまで培ってきたノウハウを活かしながら、 魅力・受入体制の強化や他のターゲットにも訴求できるような新たなサービスの可能性を検討して いく必要があります。

〇北部地域来訪者の伊江村への引き込み

本村の対岸には、年間 489 万人が訪れる海洋博公園が位置しており、本村への旅行者の中には、 海洋博公園から島が見えたことが来訪のきっかけとなっている人もいます。

一方で、本島から本村への移動における様々な制約を懸念する声も聞かれます。

北部地域を訪れる人々への情報発信や北部地域と連携した取組、移動環境の改善等、本村の立地 特性に配慮した方策を検討することで、より多くの旅行者に立ち寄ってもらえる島としていく必要 があります。

〇機能強化される公共施設を活かした、新たな旅行者の取り込み

平成28年に完成した多目的屋内運動場に代表される「総合運動公園」の整備や、「伊江島ハイビスカス園」の改修等、本村では、拠点となる施設の機能強化を進めています。

提供するサービスの魅力向上とともに、これら施設の強みを活かす方策を検討することで、受入 基盤を強化していく必要があります。

第2章 マスタープラン



観光振興の方向性

1-1 キャッチフレーズ

以下のキャッチフレーズのもと、旅行者の皆様をお迎えします。

以下のキャッナフレー人のもと、派1」目の自fxでの遅んしよっ。 伊江村の観光振興のキャッチフレーズ 思い出が咲き誇る島 伊江においでよ! #江村の観光振興のキャッチフレーズ 思い出が咲き誇る島 伊江においでよ!

〇キャッチフレーズに込めた想い

伊江島での旅を通して、圧倒的な非日常体験や成長体験、人々との交流の中で育まれる温かな 経験等、記録ではなく記憶に残る体験を楽しんでもらいたいという想いを込めました。

また、いわゆる物見遊山で地域と触れ合わない観光地ではなく、私たち村民の「家」である伊 江島に、旅行者の皆様を招き入れるような気持ちでお迎えする姿勢を表現しています。

1-2 基本理念

伊江島を本村ならではの魅力を維持・向上させながら旅行者の皆様に親しまれ続ける島とするた め、観光関連事業者・村民・行政が連携し、以下の5つの基本理念に基づき、観光振興に取り組み ます。

<u>理念1:旅を通じて人生を豊かにする学び・成長のきっかけを提供します</u>

地域の食や自然、文化、スポーツ等、伊江島ならではの魅力との出会いは、自分と向き合い心身を 育む多くの学びと成長のきっかけとなります。伊江島での体験を通じて人生がさらに豊かになるよう な旅を提供します。

理念2:時を越えて受け継がれてきた暮らしの魅力をお伝えします

伊江島には、重要無形民俗文化財にも登録されている村踊だけでなく、時を越えて受け継いできた 独特の文化がたくさんあります。伊江島ならではの暮らしの魅力を感じていただけるような体験を提 供します。

<u>理念3:五感に染み渡る体験を提供します</u>

城山から見渡す大パノラマ、寄せては返す波の音、ユリの甘い香り、肌をなでるさわやかな風、口 いっぱいに広がる伊江島牛の濃厚な旨み等、伊江島には五感に染み渡る魅力がたくさんあります。

また、マーナ(和名:ハマカブラ)のチャンプル等、一般的には見て楽しむことが多い花を舌で楽 しむ文化もあります。

伊江島の素材を様々な角度から全身で楽しんでいただけるような体験を提供します。

理念4:写真だけでは伝わらない温かな記憶のお土産を提供します

伊江島の村民は、皆が家族のように強い結びつきの中で暮らしており、島は村民にとってのまさに 「家」のような存在です。その「家」にお招きするもう一人の家族のように旅行者の皆様を迎え入れ ることで、旅が終わりそれぞれの生活に戻られたとき、「また、伊江島に帰りたい」と思っていただけ るような記憶のお土産を提供します。

理念5:日常を離れて心がゆるむ、くつろぎの時間を提供します

伊江島では、日の出・日の入り、潮の満ち引き、季節の移り変わり等の大地のリズムと寄り添い楽 しむ暮らしが今でも根付いています。伊江島を訪れる旅行者の皆様にも、日常を離れ、ゆったりとし た島のリズムを楽しみながら、心をゆるめくつろげる時間を提供します。

1-3 数値目標

既存の観光メニューの高質化と効果的な情報発信による既存市場からの持続的な旅行者の受入 や、新たな観光メニュー開発による新規市場の開拓により、年間 18 万人の旅行者に選ばれる島と なることを目指します。

伊江村の旅行者数の数値目標(目標年度:平成37(2025)年度)年間約13万人(現状)→年間18万人の旅行者を迎え入れる

〇数値目標設定の考え方

ゆったりとした空間・時間が、本村の旅の大きな価値であるため、現状多くの旅行者に訪れて いただいている季節の需要をさらに突出させるのではなく、年間を通してゆったりとした旅を楽 しんでいただけるような島を目指します。

そのため、弱みとなっている真夏・真冬において、新たな視点でのサービス提供やスポーツ等 を中心とした団体旅行の誘致等を行うことで、新規需要を開拓します。

また、本村ならではの文化や自然環境を活かしながら、現在集客力を持つイベントや修学旅行 生の民家体験泊の魅力を強化するとともに、深みのある観光地づくりを行うことで、通年での底 上げを図ります。

旅行形態	現状	目標	取組の方向性
		(H37(2025)年度)	
イベント	約 32, 500 人	40, 000 人	● 既存のゆり祭り、マラソン大会は、現
来場者	※ゆり祭り、マラソン大会実績		状の集客維持を目標とします。
			● 県レベルのスポーツ大会の誘致による 来訪者増を目指します。
			★ 真夏・真冬に一定期間のキャンペーン
			等を展開し、旅行者の増加を図ります。
修学旅行	約 43, 500 人	50,000 人	● 従来の民家体験泊による修学旅行は現
	※民家体験泊受入実績	※人数のみならず	状規模を維持することを目標としま
		延べ宿泊者数を増やす	す。 ● 10~12月のピークを除く期間での長期
			● 10・12 月のヒークを除く期間での長期 滞在型の新たな修学旅行メニューの開
			発により、新たな学校からの受入を行
			うとともに、2~3泊化を図ります。
合宿旅行	_	10,000人(泊)	● 合宿地として人気のある沖縄の強みを
		※スポーツ合宿等は長期	活かして、夏季・冬季のスポーツ合宿 等(社会人、学生 等)の誘致を図りま
		滞在型のため延べ宿泊 者数で集計	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
			本村の環境を活かした学習合宿(島留
			学、企業研修 等)の誘致を図ります。
一般旅行	約 54, 000 人	80, 000 人	● より多くの旅行者(北部地域来訪者等
	※フェリー観光客人員		をメインに)に伊江島を知ってもらえ るような広報戦略により、旅行者の増
	一(イベント来場者、修学旅行) 		るよりな広報戦略により、旅行者の増 加を目指します。
合計	約13万人	18 万人	200 0 110 0 0 7 7 0



観光振興の戦略および施策

2-1 観光振興戦略

分野	観光振興戦略		
文化・歴史	伝統芸能や民話伝承、戦争の歴史等、本村には豊かな文化・歴史資源が存在してい		
ツーリズム	ます。多くの人にこれら資源の魅力を伝えられるよう、デジタル技術の活用や学習プ		
	ログラムの充実等により、今までにない新しい体験として提供していきます。		
学び	わが国で進められている教育再生の動きをとらえ、より深く学べる修学旅行地と		
ツーリズム	リズム しての学習素材、長期受入体制を充実させることで、これまで推進してきた「		
	マンツーリズム」をさらに発展させ、需要の安定獲得と長期休暇時の子どもたち		
	主的な学習旅行需要を喚起します。		
フラワー	リリーフィールド公園やハイビスカス園での鑑賞はもとより、味わいを楽しむ、		
ツーリズム	ざわりを楽しむなど、多様な楽しみを提供するフラワー関連サービスを展開します		
	また、「記憶に残る観光地」となるよう、拠点施設だけでなく旅行者が訪れる島内		
	の様々な場所で、花のある暮らしを感じられる風景づくりを村民とともに進めます。		
スポーツ	プロ・社会人・学生野球の合宿地等として人気の沖縄の気候特性や村が保有する総		
ツーリズム	合運動公園等を活かし、野球を中心に幅広く積極的に合宿誘致を進め、選手との交流		
	や試合観戦を目的として訪れるファン層も取込んだ合宿観光を展開します。		
	また、日本でも有数と言われるダイビングや釣りのスポットをより楽しんでもら		
	うための「玄人好み」の情報発信を行うとともに、ビーチや総合運動公園、ゴルフ場		
	等のスポーツ施設において「いつでも誰でも楽しめる」をキーワードとしたスポーツ		
	プログラムの充実を図り、スポーツ初心者から玄人まで、幅広い層が楽しめる体験を		
	提供します。		
アウトドア	「手軽・おしゃれ・個性的、なのに本格派」そんな欲張りなアウトドア環境に、島		
ツーリズム	の自然や暮らしの中で蓄積されてきた生きる知恵を織り交ぜることで、日常では味		
	わえない特別な体験を提供します。		
フード(食)	せっかく訪れた人が、この島でしか味わえない・この島だからこその「しまむん」		
ツーリズム	を堪能できる観光地とするために、日ごろから村民も食べたくなるような「しまむん		
	料理」を開発し、飲食店での取り扱いや商品化を進めます。		
受入環境整備	整備 旅行者が「本村に関心を持ち、出かけ、現地情報を得て、体験し、記憶の中に伊江		
	島を刻み、思い出を持ち帰り、また思い出す」という観光行動のプロセスに対し、切		
	れ目なくサービスできるように商品・サービスの充実を図ります。		
	また、外国人旅行者の急増や民泊需要の高まり等を受け、国内外を問わず受け入れ		
	られる滞在機能の強化を検討します。		

2-2 観光振興施策の体系

観光の プロセス	分野	観光振興施策		重点シーズン		
ノロセス	野		春	夏	秋	冬
	1.	1 新しい視点で楽しむ伝統芸能				
	文化・歴史	2 村民の日常は旅行者の非日常!ローカル文化観光				
	史	3 心と身体で体感する歴史・平和学習				
	2	4 学びの充実感と達成感を味わう次世代教育旅行				
	2. 学 び	5 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期島留学				
		6 自然とともに暮らす充実感を味わうワークツーリズム				
観光メニュー	3. フラ	7 いつでもどこでも花を楽しめる島				
(体験)	フワー	8 五感のすべてで花の魅力を堪能できる島				
	4. スポ	9 村民総出で支えるスポーツ合宿・大会				
	リッ	10 伊江島ならではの楽しみがいっぱい!観光スポーツ				
	5. アウ	11 お手軽・お気軽なのに本格派!?ふらっとアウトドア				
	ウトドア	12 生きる知恵と技術が満載!サバイバルアウトドア				
	6. フィ	13 島民に愛された郷土のごちそうが食べられる島				
	ード (食)	14 思い出に残る唯一無二の食体験				
環境整備		15 五感と記憶にうったえる空間演出				
広報		16 記憶と結びつく情報戦略(事前情報発信と事後情報発信)				
案内	7.	17 かゆいところに手が届く島案内				
移動	受入環境	18 島の風を感じながら手軽に島を巡れる乗り物づくり				
19利	境	19 移動のストレスを軽くする島へのアクセス強化				
土産物 開発		20 ついつい手に取りたくなるお土産開発				
滞在		21 離島の特別感に浸れる滞在環境演出				

■:重点 ■:最重点

2-3 観光振興施策

1) 文化・歴史ツーリズム

施策 新

新しい視点で楽しむ伝統芸能

施策立案の視点

強み

- ・重要無形民俗文化財の村踊
- ・踊れる村民、三線を弾ける村民の存在
- ⇒旅行者への披露に協力意思のある村民 の存在※
- ※本村実施ニーズ調査(村民アンケート)

機会

·VR (仮想現実)、AR (拡張現実)等のデ ジタル技術の普及

施策の概要

本村に伝わる伝統芸能を、鑑賞する楽しみだけでなく、体験する、参加する、デジタル技術で味わうなど、これまでとは一味違った楽しみ方を提供することで、より楽しく、より深く本村の文化に触れていただく観光を展開します。

メインターゲット

大学生から 20 代社会人

具体プロジェクト (例)

- ・村民になりきって楽しもう! 『村踊ライブ』(村民)
- ・『はにくすに歌劇場』 ~伊江島ハンドゥー小(三大悲歌劇の一つ)の上演 等~ (行政・村民)
- ・一日でもぐんぐん上達 『海辺のカンカラ三線教室』(民間)
- ・目の前に昔の情景がよみがえる『デジタル技術を活かした歌碑巡り』(行政・民間)
- ・だれでもなりきり!『子どもエイサー体験』(民間)
- ・これであなたも村民気分!『旧盆エイサー練習体験会』(民間)

施策 村民の日常は旅行者の非日常!ローカル文化観光

施策立案の視点

強み

- ・島の生活が育んだ独特の生活文化
- ・豊富な民話伝承

機会

・国によるニューツーリズム(地域固有の 資源を新たに活用し、体験型・交流型の 要素を取り入れた旅行の形態)の振興**

※観光庁 HP「ニューツーリズムの振興」

施策の概要

「他の地域の生活文化を知る」という旅本来の楽しみを提供するため、地域の民話や伝承をもとに体験プログラム化し、村の暮らしを追体験できるような観光を展開します。

メインターゲット

20代

具体プロジェクト (例)

- ・おじーおば一直伝!『昔のデートコース散策』 ~パワースポット巡り~ (民間・村民)
- ・みんなでつくる『宝物マップ』 ~遺跡を!地形を!生き物を!おもしろ情報を!~ (民間)
- ・イベントで復活『伝統行事体験』(民間・村民)
- ・『民話の紙芝居づくり』(行政・民間)

施策 3

弱み

心と身体で体感する歴史・平和学習

施策立案の視点

強み	・戦争の記憶を伝える資源(戦跡	等) が
	多く存在	

・当時の生活や村の様子を実感しにくい (第2次世界大戦で焼き払われた歴史)

機会

- ・教育旅行では、歴史学習・平和学習に重 点をおいた活動が多い(高校・中学)
- ·VR (仮想現実)、AR (拡張現実)等のデ ジタル技術の普及

施策の概要

語り部による戦跡案内等により当時を知る人の言葉に耳を傾けたり、最新のデジタル技術を活用した現地での空間再現により疑似体験をしたりするなど、単に知るだけにとどまらない戦争という事実の理解と平和の大切さの理解を深めるサービスを提供します。

メインターゲット

小学生、中学生、高校生、大学生

具体プロジェクト(例)

- ・平和の大切さをしっかりと学ぶ『語り部と歩く戦跡巡り』(行政・民間)
- ・土地の記憶を感じる『デジタルで体感する戦争と平和の学習コンテンツ』(行政・民間)

2) 学びツーリズム

施策

学びの充実感と達成感を味わう次世代教育旅行

施策立案の視点

ルネュ朱の代示					
強み	・ヒューマンツーリズムのコンセプトに	機会	・教育再生(大学入試制度改革と学習指導		
	基づく民家体験泊による年間を通じた 修学旅行需要の獲得		要領改定の動き)		
	・歴史や自然、文化等の学習資源が豊富				
弱み	・修学旅行は短期滞在(1泊)が主流	脅威	・全国的な民泊サービスの普及		
	・受入民家の負担増大(受入民家の減少)		・本村と類似した民家宿泊型の修学旅行		
			受入先の存在		
			・貸切バス料金適正化(平成 26 年度)※に		
			よる遠方への修学旅行需要鈍化の懸念		
			※国土交通省:貸切バスの新運賃・料金制度		

施策の概要

検討が進められている大学入試制度改革や学習指導要領改定をうけ、今後子どもたちには、課題発見能力とその解決に向けた積極的な学びの姿勢が求められてきます。本村は歴史、自然、文化、産業等、良質な学習素材に恵まれており、生徒それぞれの関心に応えやすい環境を有しています。また、そのような素材を活かしたヒューマンツーリズムをコンセプトとした民家体験泊も根付いています。この機会と強みを活かし、長期受入体制を充実させることで、他の地域では真似のできない次世代教育旅行の島として差別化を図ります。

メインターゲット

小学生、中学生、高校生

具体プロジェクト(例)

- ・アクティブ・ラーニングに最適『体験体感型教育メニュー開発』(民間・小学校)
 - ※星空鑑賞会や農漁業体験等を活用した2泊3日以上の学習メニュー
- ・研究意欲を刺激する『伊江村学習サイト』整備(民間・行政)
- ・全体プログラムや子どもたちの共同研究をサポートする『学習交流の場』の提供(行政・民間)
- ・先輩たちの研究成果を閲覧できる『伊江村研究ライブラリー』(行政)

施策 5

じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期島留学

施策立案の視点

強み

- ・民宿、ホテル、受入民家の存在
- ・歴史や自然、文化等の学習資源が豊富

機会

- ・教育再生(大学入試制度改革と学習指導 要領改定の動き)
- ・沖縄県内の親の「夏の民家体験泊合宿」 への需要**
- ※本村実施ニーズ調査(海洋博公園来場者アンケート)

弱み

・修学旅行がなくなる夏休み期間の集客が弱い

脅威

・夏休みの短縮の動き

施策の概要

1週間から1ヶ月程度の長期滞在型観光の充実を図ります。個人なら受入民家で、グループなら民宿やホテルで、じっくりと島の魅力を味わって、「一生の思い出になる夏休み」を提供します。

メインターゲット

小学生、中学生

具体プロジェクト (例)

- ・宿題、自由研究サポート付き!『夏休み島留学』(民間)
- ・『感動体験メニュー開発』(星空鑑賞会、タ日鑑賞会、すべて本物!湧出水族館 等)(民間・村民)
- ・夏は子どもを成長させる!『実践学びメニュー開発』(民間・村民)

(農業、漁業、しまむん料理、歴史 等)

・馬を使った『リーダーシップ研修』(民間)

施策

自然とともに暮らす充実感を味わうワークツーリズム

施策立案の視点

強み

・体験メニューを企画しやすい第一次産 業が盛ん

機会

・着地型・体験型観光への注目の高まり

施策の概要

ただ旅をするだけでなく、本村の文化に深く触れながら地域に貢献する充実感も味わえる、村民と旅行者の WIN-WIN な関係ができる観光プログラム。

子どもから大人まで、短期から長期まで、村民側に過剰な準備の負担をかけずに参加してもらえる プログラムを開発していきます。

メインターゲット

大学生、アクティブシニア

具体プロジェクト(例)

- ・本気で働きながら島を満喫『伊江島ワーキングホリデー』(民間)
- ・あなたの植えた1本が伊江島の風景になる『IEランドスケープワークショップ』(民間)
- ・漁体験、養殖体験を楽しもう『海人体験』(民間)
- ・地下ダム、フェリー、風力発電等が見学できる『公共施設見学』(行政)

3) フラワーツーリズム

施策

いつでもどこでも花を楽しめる島

施策立案の視点

強み ・多くの旅行者を集客するゆり祭り(4~5月)

- ・1000 種類以上のハイビスカスを楽しめるハイビスカス園
- **弱み** │・夏場に楽しめる花がない
 - ・村全体で「花」という印象を感じづらい

機会

- ・海洋博公園の拠点機能の充実に向けた 新たな観光ルートの形成等の取組の促 進
- ·写真投稿型の SNS の流行による、フォトジェニックな観光資源への人気の高まり

施策の概要

現在人気を集めているゆり祭りだけでなく、年間を通して島中で花を感じられる環境を整えます。

メインターゲット

子ども、女性、高齢者

具体プロジェクト (例)

- ・四季折々の花が楽しめる『やんばる連携フラワーフェスティバル』(広域行政・民間)
- ・南国の迷宮に迷い込んだ!?『ハイビスカス巨大迷路』(民間)
- ・フラワーアイランドの拠点『ハイビスカス園の機能強化』(行政)
- ・島の名所を花や南国の果物でつなぐ、村民協働の『フラワーパスプロジェクト』(行政・村民)
- ・どこの家庭も華がある『一花運動』(行政・村民)

施策 8

五感のすべてで花の魅力を堪能できる島

施策立案の視点

強み

- ・花を使用した郷土料理の存在(マーナ、クワンソウ 等)
- 香りの強いユリ
- ・ハーブティ等で親しまれてきたハイビスカス
- ・プルースト効果(香りを嗅ぐことにより、過去の記憶や感情がよみがえる現象)

弱み

・現時点では、花を加工した食品・商品の生産体制がない

施策の概要

見るだけではない花の新しい楽しみ方を提案します。加工食品の開発や関連した商品開発を進め、 季節を問わずいつ訪れても花のイメージを感じられる島を目指します。

メインターゲット

女性

具体プロジェクト (例)

- ・音も楽しむ『菊ミネーション音楽祭』(民間)
- ・香りを思い出に『フラワーアロマ開発』(民間)
- ・目と舌で味わう『フラワーフード開発』(スイーツ、酒、茶等)(民間)
- ・肌が喜ぶ『フラワー美容グッズ開発』(民間)
- ・目で楽しむ『アートフラワーワークショップ』(民間)

4) スポーツツーリズム

施策 9

村民総出で支えるスポーツ合宿・大会

施策立案の視点

・イベント運営に慣れている(マラソン大 強み 会等)

・2020 年東京オリンピック・パラリンピ ック開催決定

- ・村民と旅行者の距離が近い
- ・スポーツに力を入れる村民性

・8月9月の旅行者数が伸び悩んでいる 弱み

施策の概要

今後整備される運動施設や検討中の合宿施設を活用し、プロの自主トレからアマチュアの合宿まで 幅広く誘致します。また、小中学生のスポーツクラブや大学サークルの合宿を誘致することで、現在 集客が弱い夏季・冬季の需要創出を図ります。

機会

さらに、ゴルフ場や島の伝統スポーツとも言える陸上競技を活かし、夏休みの短期スポーツ留学を 企画し、安定した宿泊需要を創出します。

メインターゲット

プロスポーツ団体、社会人スポーツ団体、小中学生スポーツクラブ、大学サークル

具体プロジェクト(例)

- ・『合宿施設の整備と村ぐるみの合宿受入体制整備』(行政・民間)
- ・『スポーツ合宿誘致』(野球、サッカー、バスケ、沖縄相撲、ニュースポーツ 等)(行政・民間)
- ・『自主トレーニング環境の充実』(行政)
- ・『県内のスポーツ大会の誘致』(行政)

施策 伊江島ならではの楽しみがいっぱい!観光スポーツ 10

施策立案の視点

・マリンブルーの海、珍しい海底地形 強み

- ・程よい島の大きさと起伏
- ・屋内外の運動場、ゴルフ場の存在

・8月9月の旅行者数が伸び悩んでいる 弱み

機会

・ゆるスポーツのように、性別・世代等に よらず楽しめるスポーツを生み出す動 き※

※(一社)世界ゆるスポーツ協会 HP

施策の概要

本村に来る目的となる観光スポーツメニューの充実を図ります。島の特性を活かしたマリンアクテ ィビティをはじめ、子どもから大人まで誰もが気軽に楽しめる伊江オリジナルスポーツや、仲間とと もに毎年参加したくなるようなプログラムの開発を目指します。

メインターゲット

マリン系:県外 20~30 代女性 ゴルフ:県内外 20~30 代女性、小学生 その他:県内親子連れ

具体プロジェクト(例)

- ・まだまだ知らない楽しみ方がたくさん!『ダイビングの新たな魅力開発』(民間)
- ・ここにしかない!『海辺のレクリエーションスポーツ開発』(民間)
- ・本格ロードバイクをレンタルで楽しむ『手ぶらサイクリング』(民間)
- ・今までにない楽しさを!『ニューゴルフツーリズム』(民間)
- ・今の自分と向き合う『マインドフルネス・リトリートツアー』(民間)

5) アウトドアツーリズム

施策 11

弱み

お手軽・お気軽なのに本格派!?ふらっとアウトドア

施策立案の視点

強み ・キャンプ場(旅行村)

・本島からの適度な隔絶

・沖縄・離島という環境は、現時点では、 手軽にキャンプに行く環境ではない 機会

・キャンプブームの再来

·「キッズウィーク」(大人と子どもがとも に休む期間の創出等)の動き**

※首相官邸:「キッズウィーク」総合推進会議

施策の概要

1人でも、2人でも家族でも、誰にとっても普通の旅行の延長線で楽しめるアウトドア体験を提案します。

1時間あったら島の自然を味わえるデイキャンプや自然観察等のプログラムの充実とともに、それらを楽しみながらゆっくりとコミュニケーションを楽しむ本格 BBQ 等、時間がある人も時間がない人も手ぶらで自然を遊びつくせるアウトドア体験の拠点化を目指します。

メインターゲット

親子連れ

具体プロジェクト (例)

- ・スグレモノを手軽に使える!『アウトドアグッズレンタル』(民間)
- ・島内各所に『ピクニックサイト整備』(行政)
- ・お肉をじっくり焼きながら、じっくり会話を楽しむ『本格アメリカン BBQ』(民間)
- ・思わず試してみたくなる『1アワー遊びカタログ』(民間) (サンドクラフト、サンゴクラフト、手づくりランタン、潮だまリング 等)
- ・馬に乗って『ムーンライトビーチライディング』(民間)

施策 生きる知恵と技術が満載!サバイバルアウトドア

施策立案の視点

強み・自然を賢く活用してきた生活の知恵・湧出の存在

・ハブ、クラゲ等、危険生物が生息

機会

- ・防災意識の高まり
- ·「キッズウィーク」(大人と子どもがとも に休む期間の創出等)の動き**

※首相官邸:「キッズウィーク」総合推進会議

施策の概要

弱み

どんな時でも役に立つ本物のアウトドアテクニックを身につけて楽しめるキャンプ場。火の使い方、刃物の使い方、ロープワーク等、基礎的な技術を身につけたら、プチサバイバルキャンプに挑戦。キャンプ本来の「Do it yourself」の楽しみを提供します。

メインターゲット

沖縄県内の親子連れ、男性

具体プロジェクト(例)

・『アウトドア技術講習』(民間)

(火おこし、塩づくり、真水づくり、魚釣り、ロープワーク、豆腐づくり、小麦粉づくり 等)

- ・『自分だけの道具づくり』(貝やサンゴや木や葉っぱで食器づくり、漁具づくり 等)(民間)
- ・『サバイバルキャンプフィールドの整備』(民間・行政)

(直火の焚火ができる場、道具づくりの材料(樹木、貝殻 等)を調達できる場、自由に魚等をとれる場の整備 等)

6) フード(食) ツーリズム

施策 島民に愛された郷土のごちそうが食べられる島

施策立案の視点

強み

- ・地域の風習に根ざした郷土料理の存在
- ・農漁業資源が豊富
- ・村内第一次産業事業者の特産品開発へ の協力意思[※]

※本村実施ニーズ調査(村民アンケート)

弱み

- ・需要が安定しないと対応しづらい
- ・提供体制が確立できていない

機会

- ・食に関するプログラムは旅行者の関心 が高い※
- ※本村実施ニーズ調査(海洋博公園来場者アンケート)

施策の概要

島で昔食べていた郷土料理を復元したり、現代版にアレンジしたりして、民宿やホテル、受入民家、飲食店等で提供し、旅行者がいつでも郷土の味に触れられる島を目指すとともに、100%伊江島産にこだわった「いーしまむん料理」の開発を進めます。

また、いつでも無理なく郷土料理を提供できるよう、島内の関係者がレシピの形で共有しておき、その時ある材料で柔軟に郷土料理を提供できるようなしくみをつくります。さらに、これらの料理がいつどこで食べられるのか、顧客目線での情報発信に努めます。

メインターゲット

女性

具体プロジェクト (例)

- ・島内限定!『伝統のご馳走メニュー開発とレシピ化』(行政・村民)
- ・泊まったら絶対食べたい『豪快!海人料理』(料理の情報発信とメニュー開発)(民間・行政)
- ・どうしても食べに島に行きたくなる幻の一品『伊江島牛を使った料理開発』(民間)
- ・『旅行者が驚く農産物活用』(サトウキビ、とうがん、島らっきょう、じーまみ、小麦 等)(民間)
- ・『100%伊江島産スイーツ&カクテル開発』(沖縄ぜんざい、クジガタメ、シーズンズカクテル 等)(民間)
- ・片手に持って出かけよう『100%伊江島産ファーストフード開発』(フィッシュ&ムジヌフテンプラ、牛串 等)(民間)
- ・自分で採って自分で食べる『農業体験後の食事会』(民間)

施策 14 思い出に残る唯一無二の食体験

施策立案の視点

強み

- ・第一次産業が盛ん
- ・多くの特産品が存在
- ・村内第一次産業事業者の食イベント開催への協力意思※

※本村実施ニーズ調査(村民アンケート)

脅威

・全国の食体験プログラムと競合

施策の概要

自分の手で育てたり、収穫したり、買ったり、料理したり、食をとりまく様々な体験を提供します。 食を通じて会話を楽しみ、達成感を味わい、みんなで盛り上がる。そんな全身で味わう唯一無二の食 体験で、最高の思い出づくりを応援します。

メインターゲット

親子連れ、50~60代県外旅行者

具体プロジェクト (例)

- ・『伝統の食の再現』(海水で固める島ドーフ、ツァーギナゾーネ 等)(民間・村民)
- ・海の幸、山の幸が集う『いーしま市』(民間・村民)
- ・出世した伊江島産まれの牛たちが集う肉フェス『伊江島産まれの牛同窓会』(民間)
- ・きっとはじめてだらけ『農作物・海産物等の収穫・加工体験』(民間)

7) 受入環境整備

施策 15

五感と記憶にうったえる空間演出

施策立案の視点

強み ・民家の生垣にハイビスカスやブーゲン ビリア、フルーツ等が使われている

弱み

- ・全体的にフラワーのイメージが弱い (とくに北部の農地エリア)
- ・写真映えするスポットが少ない

脅威

- ・写真映えしない観光地はメディア露出 頻度が下がる傾向
- ・星空鑑賞会や、フラワーフォトスポット、ランタンフェスティバル等には女性が強く反応**
- ※本村実施ニーズ調査(海洋博公園来場者アンケート)

施策の概要

旅行者の主要な動線と立寄スポットを想定し、集中的な植栽や休憩施設の整備、光や音や香り等、 五感にうったえる演出を行い、旅先の特別感をひきたたせます。

メインターゲット

20~30 代女性

具体プロジェクト(例)

- ・散策中に花の香りや美しい景色を楽しみながらちょっと休める『絶景フォトスポット』(行政)
- ・夜の海辺をロマンチックに楽しむ『ランタンフェスティバル』(民間・行政)
- ・フェリーターミナル、宿等『集客の拠点における香りの演出』(ユリ、月桃 等)(行政・民間)

施策 16 記憶と結びつく情報戦略(事前情報発信と事後情報発信)

施策立室の視点

ルシベン	旭火工未以忧肃					
強み	・特徴的な資源(景観、酒)の存在	機会	・WEB が広報の主流に			
弱み	・メディアへの露出が少ない・修学旅行生がリピートにつながりづらい	脅威	・流通する情報量が多すぎて埋没しがち ・事前情報が得られないことは、交通環境 が不便なことに次ぐ旅の大きなハード ル* ※本村実施ニーズ調査(海洋博公園来場者アンケート)			

施策の概要

インターネットの活用により手軽に情報拡散できるようになった環境を活用し、旅行前の情報提供、現地での情報提供、旅行後の情報提供等、旅行の動機付けとリピートの動機付けを意識した情報発信を行います。

また、海洋博公園を訪れる旅行者の立寄需要を喚起するために、行き帰りのフェリーの時間に合わせたおすすめ観光メニューの紹介等、旅行者の行動に配慮した情報発信に努めます。

さらに、香り×情報、場所×情報のように、ターゲットが記憶から情報を引き出すきっかけをつくれるような情報発信の工夫も心がけます。

メインターゲット

全旅行者

具体プロジェクト(例)

- · SNS や動画共有サイト等を活用した視覚情報の発信(民間)
 - (擬似的に旅のストーリーを感じる「フォト日記」や「旅動画」の拡散 等)
- ・伊江島までの旅の工程ごとに必要な情報をまとめたポータルサイトづくり(行政)
- ・発地の商業店舗と連携したキャンペーン展開(物産展×アロマ⇔アロマ×ポスター配布)(民間)
- ・来訪者限定の動画投稿のしくみづくり(民間)
- ・民家体験泊コミュニケーションサイト整備(行政)

施策立案の視点 強み ・村民が旅行者を受け入れる姿勢 ・人の温かさが評価を得ている 弱み ・島内の案内サインが目立たない、少ない・伊江島の魅力を伝えられるガイドが少ない・ソフト、ハード両面で多言語対応が進んでいない

施策の概要

セルフガイドをサポートするアプリ等による多言語デジタルコンテンツ開発や紙媒体の散策用マップの充実を図ります。

旅行者の手元情報の充実により現地サインの簡素化を図りつつ、言語の違いに左右されないピクトサインも多く取り入れながらスマートできめ細かなサイン配置を目指します。

また、村民が全員伊江島の魅力を語り旅行者を案内できるような教育プログラムを展開します。

メインターゲット

全旅行者(特に外国人旅行者)

具体プロジェクト (例)

- ・多言語案内アプリの開発(民間・行政)
- ・テーマ別のマップづくり(民間・行政)
- ・ピクトサイン整備(行政)
- ・村民観光サポーター登録制度(行政・村民)

施策 18 島の風を感じながら手軽に島を巡れる乗り物づくり

18	島の風を窓しなから于軽に島を巡れる来り初してり						
施策	施策立案の視点						
強み	・レンタカー、レンタサイクルがある	機会	・WEB を活用した様々なもののシェアリン				
弱み	・バスの便数が少ない・観光資源が分散し、徒歩圏内に少ない・観光のための交通が少ない		グ技術向上				
	•						

施策の概要

コンパクトな島の特性を活かした交通手段の導入により、家族や友人とのんびり会話を楽しみながら島を巡れる環境を整えます。

メインターゲット

全旅行者

具体プロジェクト (例)

- ・こんな乗り物はじめて!『トラクタータクシー』(民間)
- ・みんなで風を感じよう!『レンタルゴルフカート』でのんびり島巡り(行政・民間)
- ・路線バスの観光利用拡大の可能性検討(行政・民間)
- ・島をぐるっと巡る観光自動運転車導入の検討(行政・民間)

施策 19 移動のストレスを軽くする島へのアクセス強化

施策立案の視点

ルビベン	- 木ツルボ		
強み	・那覇から本部までの直通高速バスの運	機会	・本部港における立体駐車場整備計画(沖
	行		縄県)
弱み	・船の便数が少ない	脅威	・交通環境が不便なことは旅の大きなハ
	・那覇行高速バスが容量不足の場合があ		− ドル [※]
	る		※本村実施ニーズ調査(海洋博公園来場者アンケート)
	・自家用車、レンタカーでアクセスしにく		
	1.		

施策の概要

「車とフェリーを乗継ぐのは大変」というイメージや、大きな荷物を持って歩かなければいけないというマイナス面を解消するため、多様な交通手段の活用や乗継ぎ案内の充実を図ります。

メインターゲット

全旅行者

具体プロジェクト (例)

- ・フェリーの増便(行政)
- ・海洋博公園からの直通連絡船就航(民間)
- ・ 伊江島へのアクセスに関する情報の充実(行政)
- ・空路の整備(県空港の延伸と路線誘致)(行政)

施策 20 ついつい手に取りたくなるお土産開発

施策立案の視点

強み	・伊江島午、フム酒等の局品質な特産品の仔仕					
	・海産物、ハイビスカス、	その他、伊江村特有の資源の存在				

弱み ・「ばらまき」用土産(個包装 等)が少ない ・思い出に残るお土産が少ない(消費型の商品が主体)

・電子マネー、クレジットカードへの対応の遅れ

施策の概要

「しまむん」にこだわった高品質なお土産の開発を、村内の事業者や子どもたち等、多様な主体の参画のもと推進します。他人へのお土産用の商品には PR の工夫を、自分のお土産には思い出を持ち帰れるような工夫を凝らした商品開発を行います。香りや音等、記憶との結びつきの強い要素を活かした商品、売場の演出に努めます。

メインターゲット

全旅行者(ターゲット属性ごとにきめ細かに対応した品をそろえる)

具体プロジェクト(例)

- ・島産・小分け・高級・ストーリー等をキーワードにした『しまむん土産』の充実(民間)
- ・記憶に残るユリのアロマグッズ開発(アロマオイル、キャンドル 等)(民間)
- ・電子マネー、クレジットカード対応の充実(民間・行政)
- ・島の魅力を村の子どもの視点でお土産物に!『僕たち私たちからの贈り物』(小学校・民間・行政)
- ・タッちゅんグッズの充実(行政・民間)

施策 離島の特別感に浸れる滞在環境演出

施策立案の視点

307IV	- Parit		
強み	・「島」という特別感	機会	・価値観の多様化 ・ネット環境を活用した観光情報の爆発 的な増加
弱み	・気軽に休憩できる場所が少ない ・島らしさの演出不足 ・宿泊施設の種類の少なさ	脅威	·宿泊施設への多様な需要(利用者により 求める設備が異なる 等)

施策の概要

旅行者が求める島らしさの演出と旅行者目線の気の利いた環境や設備の提供により、単なる高級やオシャレでは得られない島らしい快適さを追求します。

メインターゲット

全旅行者

具体プロジェクト (例)

- ・島内宿泊施設(受入民家含む)の統一的イメージアップ(シーサー、ハイビスカス、サンゴ等、地域 らしさを感じるデザインコードの採用)(民間)
- ・お茶飲み場の充実(縁側の開放、民宿の食堂の昼時間帯活用、CAFE 等)(民間)

2-4 公共施設の活用方針

本村では、総合運動公園の整備や、ハイビスカス園の改修等、観光の拠点となりうる公共施設の 機能強化を進めています。

以下に、観光振興における公共施設等の活用の方向性を示します。

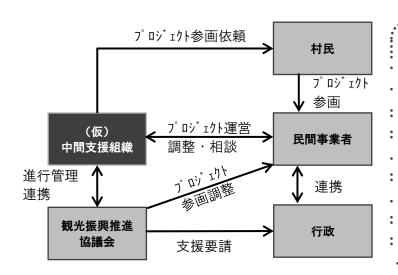
	施設の強み	活用の方向性	文化・歴史	学び	フラワー	スポーツ	アウトドア	フード(食)
	■ 複数の競技に対応可能な 施設が集積(野球場、屋	● スポーツ等の合宿等の受入の拠点 としての活用				0		
総合運動公園	内多目的運動場 等) ■ 雨天時にも大人数に対応	● 修学旅行等の団体旅行における全 体活動の場としての活用		0				
動 公 園	可能な屋内多目的運動場	● 雨の日のプログラム提供場所としての活用(屋内多目的運動場)	0	0		0		
		◆ 大規模な集客が想定されるイベント会場としての活用	0	0	0	0	0	0
旅行村	■ 海に面したキャンプ場 ■ 白いビーチと青い海と空	 ● 夏場の大規模な集客が想定される イベント会場としての活用	0	0	0	0	0	0
(キャンプ場・	との美しい景観	● 立地・環境を活かしたアウトドア プログラムの提供(キャンプ場・ ビーチの高付加価値化)					0	
伊江ビーチ等)		● 美しい沖縄の風情を感じられる景 観を活かした文化・歴史体験の場 としての活用(海辺のカンカラ三 線 等)	0					
ハイビスカス園	■ 1,000 品種余のハイビス カス	■ 思わず写真に撮りたくなるような しかけや散策したくなるような園 路の工夫による写真撮影スポッ ト・休憩スポットとしての活用			0			
リリーフィールド公園	■ 崖沿いにユリが咲き誇る 美しい景観	■ 思わず写真に撮りたくなるような しかけによる、写真撮影スポット としての活用			0			
はにくすに	■ 本村の玄関口である伊江 港と直結した立地	● 芸能等の披露・体験の場としての 活用	0	0				
すに	■ 雨天時にも大人数に対応 可能な空間	● 雨の日のプログラム提供場所としての活用	0	0				
ゴルフ場	■ 初心者でも楽しめるコース■ 爽快な景色	● 多角的な活用によるゴルフ場の高付加価値化(フットゴルフ、ディスクゴルフ、キッズデー 等)				0		
場	■ ゴルフカートを所有	● ゴルフカートの島内交通手段とし ての活用	0	0	0	0	0	0

3

観光振興の推進体制

3-1 推進体制

関係する主体が連携しながら具体プロジェクトを実施し、着実に観光振興を推進できるよう、以下のような体制の構築を図ります。



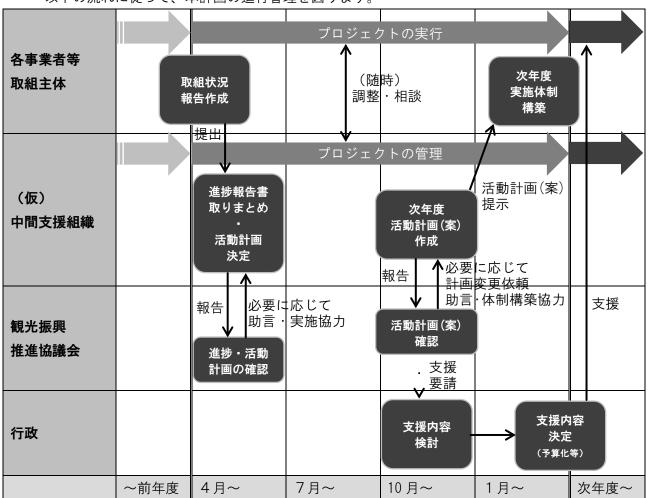
【(仮)中間支援組織の設置について】

長期にわたる計画の着実な推進のためには、計画の中身を熟知し、状況に応じた 企画の立案や調整を行う主体((仮)中間 支援組織)の存在が重要となります。

: これまで主に行政が担ってきた役割で : すが、観光振興にあたっては民間主導の : プロジェクトも多く、柔軟かつスピード ・ 感のある展開が求められるため、行政と ・ の一体的な活動を前提とした民間側の進 ・ 行管理体制の充実を図ります。

3-2 計画の進行管理の流れ

以下の流れに従って、本計画の進行管理を図ります。



3-3 ロゴマークの設定

観光にかかわる各主体が連携しながら、本計画に示したキャッチフレーズや基本理念に基づくモノやサービスを生み出し、旅行者の皆様に提供していきます。

この取組を強力に推進し、旅行者の皆様に知っていただけるよう、本計画に基づくモノやサービスに表示するロゴマークを作成しました。

ロゴマークには、観光振興のキャッチフレーズを配置するとともに、「思い出が咲き誇る島」を、伊江島を背景として、前面にユリとハイビスカスを配置することで表現しています。





[基本タイプ]

[印影タイプ]



伊江村の観光振興の今後の課題

本村の観光振興を進めるためには、様々な創意工夫により、今できることを着実に進めるとともに、 様々な要因から現時点では解決が難しい課題にも長期的な視点で取り組むことが必要です。

本村では、以下に示す課題について、各種関係者との連携・調整等を進めながら、解決のための方 策を探ります。

〇島へのアクセス環境の改善

本村を訪れる方法は、日に4便のフェリーのみであり、悪天候時には欠航となることも多く、旅 行者の皆様が本村を訪れる際の大きなハードルとなっています。

本村のさらなる観光振興を図るためには、島への新たなアクセス方法を確立するなど、抜本的なアクセス環境の改善が重要となるため、国・県等の関係機関との意見交換を行いながら、以下に示すような方策の可能性について検討します。

方策例)

- ✓ 伊江島空港を活用した本島や県外からの飛行機によるアクセス環境の整備
- ✓ フェリー運行回数の増加
- ✓ 本部港以外からの連絡船の運航
- ✓ 那覇港からの伊江村直行船舶の運航

○観光振興のための取組への村民参加のしくみづくり

本村の観光の魅力を高めるためには、観光振興のための取組への村民の参加が非常に重要です。 しかし、観光業に従事していない村民が観光振興のための取組に参加するには、時間的な制約や 活動費用面での制約、技術的な制約等、多くのハードルがあります。

今後、村民が恒常的に無理なく参加できるようなしくみを検討します。

〇旅行者の実態把握

旅行者の皆様にさらに満足いただくためには、詳しく実態や意向を知る必要があります。

そのため、宿、飲食等の観光関連事業者等と連携しながら、継続的な実態把握方法やその結果の活用方法について検討します。





アクションプランの概要

1-1 アクションプランの位置づけ

このアクションプランでは、3年間で重点的に取り組むべき施策および具体プロジェクトを示し、 具体的な展開方策例や実施スケジュールを示しています。

なお、アクションプランに位置づけられていない施策や具体プロジェクトであっても、マスタープランに沿ったものであれば、行政、民間の各主体において実行できるところから取り組んでいくことが求められます。

1-2 アクションプランにおける重点テーマ

マスタープランに示された目標の達成に向け重点的な取組が求められる課題を3つの重点テーマとして整理しました。

これらの3つの重点テーマに沿って施策や具体プロジェクトを効果的に組み合わせて実行していくことで、強みの維持、弱みの克服の実現を目指します。

▶ 重点テーマ1:真夏·真冬の観光需要創出 ~学び、スポーツによる観光振興~

修学旅行生が来ないことにより旅行者数が落ち込んでいる夏休み期間や年度末の観光需要を創出するために、スポーツ・学びをキーワードに新しい観光スタイルを提案し、観光需要創造を目指します。

- <u>▼ 重点テーマ 2:教育旅行に新しい価値を提供する ~次世代の修学旅行需要への対応~</u> 学校教育を取り巻く環境の変化を踏まえ、新たな修学旅行の価値を提供できる教育旅行を提案し、 本村の観光の主力である修学旅行需要の確実な維持とさらなる増加を目指します。
- <u>重点テーマ3:より多くの人に伊江の魅力を伝える ~ショートステイ旅行者の誘致~</u> 総合的な環境整備により、沖縄を訪れる多くの旅行者にあと一歩足をのばしていただき、本村の 魅力に触れ、思い出を持ち帰り、共有し、そしてまた伊江島を訪れていただくことを目指します。



2-1 重点テーマ1 [真夏・真冬の観光需要創出]

1) アクションプラン総括シート

1) アクショ	コンプランドのロン・			
重点テーマ	真夏・真冬の観光需要創出 ~学び、スポーツによる観光振興~			
概要・ねらい 夏休みを利用した、文化学習やスポーツを楽しむ「島留学」による長期滞在型				
ベ安・ ねりい	光スタイルを確立し、夏場の安定需要創出を図ります。			
	また、温暖な気候を活かした、冬季の	スホーラ合伯誘致を日拍しまり。		
ターゲット		【真夏の需要創出】		
	島留学:沖縄県内を中心に全国の小中	学生、ボーイスカウト		
	【真冬の需要創出】			
		ーム、冬季トレーニングをしたいプロ選手		
訴求ポイン	▶ 島留学:唯一無二の体験による子どもの	教養面、精神面、身体面の成長		
	スポーツ合宿:全天候型施設、自主トレ	ーニングに適した多様な環境		
収益化方策	・島留学では、長期滞在の宿泊に加え、	プログラム参加費や友達、家族へのお土産等		
	の関連消費も見込めます。	の関連消費も見込めます。		
	・スポーツ合宿では、食費込みの長期滞在費用と施設使用料を中心に、外食需要も見			
	込めます。また、帯同者(家族等を含む)のアクティビティ参加費用等も見込めま			
	す。			
		具体プロジェクト		
真夏の需要				
		・夏休み島留学		
【主】	創出	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発		
【主】 施策5 』	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期	・夏休み島留学・実践学びメニュー開発・感動体験メニュー開発・海辺のカンカラ三線教室		
【主】 施策5	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ		
【主】 施策 5 ! 施策 1 я	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 新しい視点で楽しむ伝統芸能	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ ・デジタル技術を活かした歌碑巡り		
【主】 施策 5 』 施策 1 第	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ		
(主) 施策5 施策1 施策3	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 新しい視点で楽しむ伝統芸能 ひと身体で体感する歴史・平和学習	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ ・デジタル技術を活かした歌碑巡り ・デジタルで体感する戦争と平和の学習コンテンツ ・語り部と歩く戦跡巡り		
(主) 施策5 施策1 施策3	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 新しい視点で楽しむ伝統芸能 ひと身体で体感する歴史・平和学習 尹江島ならではの楽しみがいっぱい!	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ ・デジタル技術を活かした歌碑巡り ・デジタルで体感する戦争と平和の学習コ ンテンツ		
(主) 施策5 施策1 施策3	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 新しい視点で楽しむ伝統芸能 ひと身体で体感する歴史・平和学習	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ ・デジタル技術を活かした歌碑巡り ・デジタルで体感する戦争と平和の学習コンテンツ ・語り部と歩く戦跡巡り ・海辺のレクリエーションスポーツ開発 ・ニューゴルフツーリズム ・マインドフルネス・リトリートツアー		
(主) 施策 5 施策 1 施策 3 施策 10 イ	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 新しい視点で楽しむ伝統芸能 ひと身体で体感する歴史・平和学習 尹江島ならではの楽しみがいっぱい! 現光スポーツ	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ ・デジタル技術を活かした歌碑巡り ・デジタルで体感する戦争と平和の学習コ ンテンツ ・語り部と歩く戦跡巡り ・海辺のレクリエーションスポーツ開発 ・ニューゴルフツーリズム		
【主】 施策 5 施策 1 施策 3 施策 10 イ	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 新しい視点で楽しむ伝統芸能 ひと身体で体感する歴史・平和学習 尹江島ならではの楽しみがいっぱい! 現光スポーツ	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ ・デジタル技術を活かした歌碑巡り ・デジタルで体感する戦争と平和の学習コンテンツ ・語り部と歩く戦跡巡り ・海辺のレクリエーションスポーツ開発 ・ニューゴルフツーリズム ・マインドフルネス・リトリートツアー ・ダイビングの新たな魅力開発		
【主】 施策5 施策1 施策3 施策10 イ 真冬の需要 【主】	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 断しい視点で楽しむ伝統芸能 ひと身体で体感する歴史・平和学習 尹江島ならではの楽しみがいっぱい! 観光スポーツ	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ ・デジタル技術を活かした歌碑巡り ・デジタルで体感する戦争と平和の学習コンテンツ ・語り部と歩く戦跡巡り ・海辺のレクリエーションスポーツ開発 ・ニューゴルフツーリズム ・マインドフルネス・リトリートツアー ・ダイビングの新たな魅力開発 ・合宿施設の整備と村ぐるみの合宿受入体 制整備		
【主】 施策 5 施策 1 施策 3 施策 10 イ	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 断しい視点で楽しむ伝統芸能 ひと身体で体感する歴史・平和学習 尹江島ならではの楽しみがいっぱい! 観光スポーツ	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライザー体験 ・村踊ラル技術を活かした歌碑巡り ・デジタルで体感する戦争と平和の学習コンテンツ ・語り部と歩く戦跡巡り ・海辺のレクリエーションスポーツ開発 ・ニューゴルフツーリズム ・マインドフルネス・リトリートツアー ・ダイビングの新たな魅力開発 ・合宿施設の整備と村ぐるみの合宿受入体制整備 ・スポーツ合宿誘致 ・自主トレーニング環境の充実		
【主】 施策 5 施策 1 施策 10 権 東冬の需要 【主】 施策 9	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 断しい視点で楽しむ伝統芸能 ひと身体で体感する歴史・平和学習 尹江島ならではの楽しみがいっぱい! 観光スポーツ	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもイブ・ガー体験 ・村踊ライザー体験 ・がジタルで体感する戦争と平和の学習コンテンツ・語り部と歩く戦跡巡り ・海辺のレクリエーリズム ・コーゴルフツーリズム ・マインドフルネス・リトリートツアー・ダイビングの新たな魅力開発 ・合宿施設の整備と村ぐるみの合宿受入体制整備 ・スポーツ合宿誘致 ・自主トレーニング環境の充実 ・伝統のご馳走メニュー開発とレシピ化		
(主) 施策5 施策1 施策3 施策10 イ 連冬の需要 【主】 施策9	創出 じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期 島留学 所しい視点で楽しむ伝統芸能 ひと身体で体感する歴史・平和学習 尹江島ならではの楽しみがいっぱい! 観光スポーツ 創出 村民総出で支えるスポーツ合宿・大会	・夏休み島留学 ・実践学びメニュー開発 ・感動体験メニュー開発 ・海辺のカンカラ三線教室 ・子どもエイサー体験 ・村踊ライブ ・デジタル技術を活かした歌碑巡り ・デジタルで体感する戦争と平和の学習コンテンツ ・語り部と歩く戦跡巡り ・海辺のレクリエーションスポーツ開発 ・ニューゴルフツーリズム ・マインドフルネス・リトリートツアー ・ダイビングの新たな魅力開発 ・合宿施設の整備と村ぐるみの合宿受入体制整備 ・スポーツ合宿誘致 ・自主トレーニング環境の充実		

施策5	じっくりと島の文化と自然を学ぶ短期島留学
具体 プロジェクト	■夏休み島留学 夏休み期間を活用して、充実した学びを提供する島留学プログラムを開発します。 ・夏休み期間中の1週間以上の長期滞在の受入体制の構築【1】 :団体利用時の食事提供のしくみ検討 ・郷土料理を中心とした滞在中の食事対応【1】 ・アレルギー防止、事故の防止等、健康・安全管理のマニュアル化【1】 ・正しい生活習慣指導のための民家のための基本指導マニュアル作成【2】
	■実践学びメニュー開発 見聞きするだけでなく、実際に自分で取り組むことで、深い学びを得られるような学びのメニューを開発します。 ・子どもたちの多様な興味に応える、伊江島の文化・自然を活かした体験プログラム開発【1】 ・自由研究サポート【2】 :セルフガイドで「研究」しながら島内を巡るための案内ツール開発と研究活動をサポートする語り部等のサポーターの体制整備
	■感動体験メニュー開発 本村の豊かな自然環境や村民の暮らしに根付いた文化等を身体全体で楽しめる「感動体験メニュー」を開発します。 ・タ日と星の鑑賞会&撮影会【1】 :長期滞在だからこそ確実に味わえる、海に沈む夕日と満天の星空の鑑賞プログラム(留学費用に含ませる) : 天体望遠鏡、双眼鏡、カメラの有料レンタル ・湧出展望台から観察する不思議なテレスコープ水族館【1】 :望遠カメラ、高倍率双眼鏡を有料レンタル :観察用図鑑を作成し留学生に無料(留学費用に含む)レンタル(有料で販売も行う)
基本スキーム関連	学びメニュー 提供者 留学プログラム紹介 [メインターゲット] 感動メニュー 提供者 民泊仲介者 [サブターゲット] 民 家 子どもの受入
関理 タスク	・ホーイスカウト、スポーツ団体、子ども会寺を通じた仏報手段の検討を行います。 ・県外からの子どもたちを受け入れる場合の本村までの送迎対策も検討します。

プ ロシ゛ェクト

新しい視点で楽しむ伝統芸能

具体

■海辺のカンカラ三線教室

子どもから大人まで誰でも気軽に楽しめるカンカラ三線づくりのワークショップと演奏指導をセットにした体験プログラムを開発します。旅先で雨に降られても、雨の海を眺めながら伊江島の文化に触れ雰囲気を楽しんでもらうためのプログラムです。

- ・雨天時も活用できる場所の確保(ターミナル、青少年旅行村内売店 等)【1】
- ・三線講師の登録(レベルを問わず幅広く)【1】
- ・三線教室の運営プログラムと指導者依頼のルールづくり【1】
- ・カンカラ三線づくりワークショップの企画と準備【1】

■子どもエイサー体験

子どもたちがエイサーの衣装を身にまとい、島人になりきって楽しむプログラムを開発します。

- ・活動プログラムの検討(講習メニュー、実施頻度・時期、実施場所 等)【2】
- ・指導体制の整備(青年会等村内の各団体と調整)【2】
- ・貸衣装、道具の準備【2】

■村踊ライブ

国の重要無形民俗文化財の村踊をより気軽に楽しんでもらう定期開催のライブを実施します。

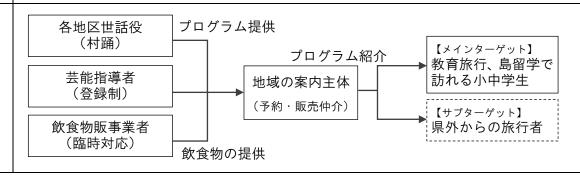
- ・年間開催スケジュールの作成【1】
- ・各地区の踊りをより深く楽しむための解説書づくり【2】
- ・飲食やグッズ販売等、観客がより楽しめる関連消費環境の充実【2】
- ・村踊博物館の整備【3】
 - : 村踊の字ごとの特徴や、資料、実物の小道具等を映像資料とともに展示
 - : 既存施設内の未利用空間の活用等を検討(旅客船ターミナルビル 等)

■デジタル技術を活かした歌碑巡り

歌碑ごとに設置されたスタンプQRコードを集めながら島内に数十か所存在する歌碑を 巡るスタンプラリーを開発します。

- ・歌碑情報の観光向け加工編集およびスタンプまたは QR コードの整備【1】
- ・島内各団体と連携した特典(歌碑カード、食事券、記念品 等)の整備【2】
- · VR/AR 活用可能性検討【3】

基本 スキーム



プ ロシ゛ェクト

心と身体で体感する歴史・平和学習

具体

■デジタルで体感する戦争と平和の学習コンテンツ

村内に点在する戦跡等の平和学習資源について、デジタル技術を使って体感しながら 学習できるようなコンテンツを開発します。

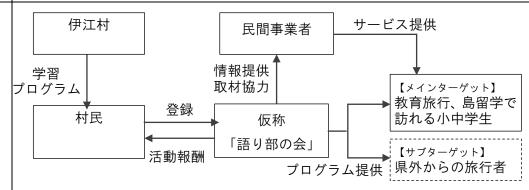
- ・スマホで見られる QR コードを活用した現地情報提供の充実【1】
- ・既存資源以外の平和学習資源の発掘と関連情報の収集【2】
- ・戦争の実態を体感できる VR/AR 技術を活用したプログラム【3】

■語り部と歩く戦跡巡り

平和学習資源の持つ意味や、戦争時の状況等について解説できる語り部を組織化し、資源について解説しながら巡るプログラムを開発します。

- ・活動の継続性を確保するための有償プログラムの構築【1】
- ・戦跡巡りの事前学習スペースの充実(資料館の活用 等)【1】
 - : 伊江村ができてから、現在までの、生活や戦争の歴史を詳しく伝える
- ・戦争体験を語れる語り部の登録・認定制度創設【1】
- ・語り部を育成するための伊江村の歴史勉強会開催【2】
- ・疑似体験の演出強化【3】
 - :戦時中に使用していた生活道具のレプリカ等を活用した体験メニューの充実(ニーバンガズィマールのレプリカ等、当時の様子を体感できる工夫も検討)

基本 スキーム



関連 タスク

- ・教育委員会での生涯学習対応可否の確認等、関係組織への協力依頼もあわせて行いま す。
- ·VR/AR の技術動向把握と協力事業者のリサーチを行います。

伊江島ならではの楽しみがいっぱい!観光スポーツ

具体 プロジェクト

■海辺のレクリエーションスポーツ開発

島の強みである海辺の魅力を堪能しながら、子どもから大人まで気楽に参加できるレクリエーションスポーツを開発します。(ビーチバレー・ビーチサッカー・ビーチフラッグ等、海辺の環境を活かした手軽なスポーツ)

- ・個人または少人数でも短時間で楽しめる手軽なスポーツの企画【1~】
 - : 体力差、技術力差によらず楽しく競える、記録挑戦型、対戦型の種目開発
- ・開発したスポーツを評価するための試行イベント開催【1~】
- ・インストラクター(案内係)の養成【2~】
- ・10 種目程度開発した時点での PR キャンペーンの実施【3】

■ニューゴルフツーリズム

爽快なロケーションのゴルフ場を多角的に活用し、女子旅ゴルフや家族ゴルフ、子どものゴルフ合宿等、新たな観光利用を促します。

- ・フットゴルフ、ディスクゴルフへの開放可能性検討【1】
- ・一定の期間中利用し放題の「短期島留学パス」の導入可能性検討【2】
- ・旅行者が手軽に楽しめる女性用や子ども用のレンタルの充実【2】

■マインドフルネス・リトリートツアー

馬に乗りながら島のゆっくりとした時間を堪能するリフレッシュプログラムを開発します。

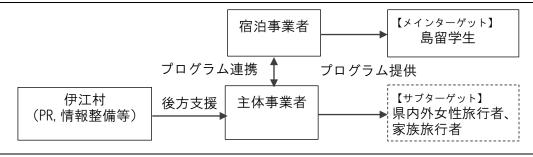
- ホースライディングを軸としたプログラム展開【1】
- ・マインドフルネス、リトリート関連の連携プログラムの開発【2】
- 飲食等と連携した総合的なウェルネスプログラム化【2】

■ダイビングの新たな魅力開発

多種多様なダイビングスポットを有する伊江の海を活かした新たなダイビングの魅力 づくりを行います。

- ·島内事業者の協力による正統派ダイビングスポットの整理と魅力の整理、紹介用の画像映像の収集【1】
- ・新しいダイビングの楽しみ方の企画【1】
 - :海中での、撮影会、コスプレ、マイ熟成酒づくり、サンゴ移植体験 等
- ·SNS、HP 等を活用した情報発信【1】

基本 スキーム



関連 タスク

・具体プロジェクト単体ではなく、複数の具体プロジェクトを組み合わせた1泊2日で 楽しんでもらえるツアー企画等も検討します。

プ ロシ゛ェクト

村民総出で支えるスポーツ合宿・大会

具体

■合宿施設の整備と村ぐるみの合宿受入れ体制整備

スポーツ合宿・大会を受け入れるための環境整備・体制づくりを行います。

- ・合宿施設の整備【検討中】
- ・民宿等の活用策検討【1】
 - : 民宿の宿泊規模に合ったスポーツの誘致策を検討。
 - :ミーティングスペースとして使える食堂スペースの改修や、地域の食材を活かした 健康食の提供等による魅力化
 - : 団体向けの送迎、食事等の対応策についても検討
- ・飲食店、商店等における合宿関連対応の充実【2】

■スポーツ合宿誘致

社会人野球等、これまで築いてきた関係を活かすとともに、沖縄県スポーツコンベンション誘致戦略との連携を図りつつ誘致を進めます。

合宿施設整備前の段階でもニュースポーツ等、チーム規模の小さなスポーツの誘致等 も、民宿等との連携により積極的に進めます。

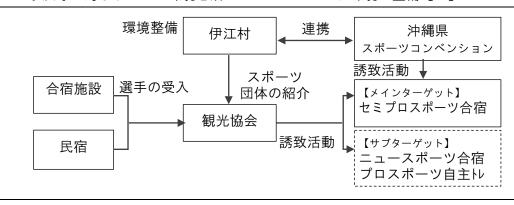
- ・セミプロスポーツ合宿の誘致【1】
- ・ニュースポーツ合宿の誘致【1】
 - :3on3バスケ、ディスクスポーツ 等

■自主トレーニング環境の充実

自主トレ目的の来島や、キャンプ中の単独トレーニング等、個人または小規模での自主 トレに対応した環境の充実を図ります。

- ・ロードワークのための安全対策や距離表示等の充実【2】
- ・砂浜等の島ならではの環境を活かしたトレーニング環境の整備【2】

基本 スキーム



プ ロシ゛ェクト

島民に愛された郷土のごちそうが食べられる島

具体

■伝統のご馳走メニュー開発とレシピ化

昔、島で食べられていた料理を復活させ、レシピ化して、旅行者に提供します。

- ・古老への聞き取り調査による伝統料理の再現【1】
- ご馳走メニュー開発【1】
 - : 再現された伝統料理はできるだけオリジナルの味を守ることとしながら、旅行者の満足度を高められるよう味付けや材料の工夫を行い「ご馳走メニュー」として定型化
 - : 特にスポーツ選手向けに健康に配慮したメニューの開発
- ・島内の飲食店、宿泊施設でメニューを共有するためのレシピ化【2】

■豪快!海人料理

- 一般的には飲食店等には並ばないような、海人しか知らない料理を旅行者向けにアレンジして提供します。
 - ・本物の海人がいつも食べている豪快料理の取材【1】
 - ・家の中や店ではできない調理方法の開発【1】
 - ・旅行者にとって驚きがある料理の開発【1】
 - : 丸かじりグルクンから揚げ、未利用魚や端物を使った「海鮮もったいない丼」、豪 快!無理やり!ソデイカ飯!、釣ったその場でから揚げ料理 等

■伊江島牛を使った料理開発

本村の特産品のひとつである伊江島牛を使った、旅行者がわざわざ食べに島に来たくなるような料理を開発します。

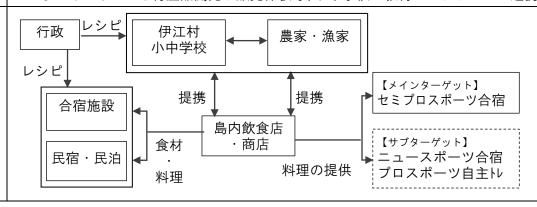
・伊江島牛を使った料理の開発【1】

■旅行者が驚く農産物活用

島の農産物を、これまでとは違う新たな視点で活用するメニューを開発します。

- ・島の農産物を活用した料理コンテスト【1】
- ・子どもたちによる特産品開発や販売体験等、小中学校の教育プログラムとの連携【1】

基本 スキーム



2-2 重点テーマ2 [教育旅行に新しい価値を提供する]

1) アクションプラン総括シート

重点テーマ	教育旅行に新し	教育旅行に新しい価値を提供する			
	~次世代の修学	旅行需要への対応~			
概要・ねら	大学入試制度改革、中高の指導要領改	定の方向性を踏まえ、生徒たちが自ら課題を			
	発見し解決方策を考え、さらに生徒同士が話し合いながら問題解決にあたると				
	これからの時代に求められる能力を高め	る機会を提供します。			
	これまで主流の1泊の民家体験泊だけ	でなく、上記の課題に取り組むための2~			
	3泊の修学旅行誘致を目指すことで、総	宿泊数の維持、増加を目指します。			
ターゲット	【修学旅行】				
	全国の中学校、高校で、特に先進的な	教育に力を入れる進学校、中高一貫教育校、			
	個性的な教育展開する学校(主に私立	個性的な教育展開する学校(主に私立)			
	【その他の教育旅行(移動教室や林間学	【その他の教育旅行(移動教室や林間学校等)】			
	県内の小中高校				
訴求ポイン	ノト ・生徒たちのグループ単位での自由な活	・生徒たちのグループ単位での自由な活動のしやすさ			
	・研究対象となる文化、歴史、自然の学習素材の豊富さ				
	・他県にはない学習体験				
収益化方策	・宿泊費に加え、教材整備費、プログラム参加料等をオプションで組み合せ、学校ご				
	とにメニューを選べるようにすること	ことで、平均的な単価の向上を図ります。			
	重点施策	具体プロジェクト			
【主】	学びの充実感と達成感を味わう次世代	・体験体感型教育メニュー開発 ・伊江村学習サイト			
施策4	教育旅行	・『学習交流の場』の提供			
施策3	心と身体で体感する歴史・平和学習	・デジタルで体感する戦争と平和の学習コ ンテンツ			
(再掲)		・語り部と歩く戦跡巡り			

施策4 学びの充実感と達成感を味わう次世代教育旅行 具体 ■体験体感型教育メニュー開発 プ ロシ゛ェクト 本物の仕事に触れ日々の学びを実社会とつなげて考えたり、社会で活躍していくため

のコミュニケーションやリーダーシップを体験を通じて学んだりするプログラムを開発 します。

農業、漁業体験【1】

- :農家、漁家の協力のもと、「業」の現状と技術を学ぶ座学と、体験を通して学ぶ実 践教育のデュアルシステムプログラムを構築
- ・リーダー研修【1】
 - :島内の研修技能保有者または研修可能な経営者等による子どもの社会性を育むプ ログラムを構築

■伊江村学習サイト

伊江村についてより深い関心を持ってもらうための学習サイトを構築します。

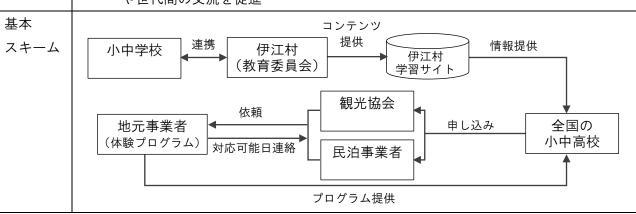
単なる地域の詳細情報発信ではなく、伊江村の自然や文化について考えるきっかけと なる「課題提示」を中心とした情報発信を行い、実際に現地を見たり、村民との会話を通 じてより深く伊江村を理解してもらうためのしかけとします。

- ・基礎学習コンテンツ(地勢、歴史概要、主要な産業や観光資源)の整備【2】
- ・研究課題コンテンツ(島に関する自由研究の問題集)の整備【2】

■『学習交流の場』の提供

グループ学習や学校間の交流事業等を行える場を提供し、ワーキングやディスカッシ ョン等今後の教育で重視される活動ができる環境を整備します。

- ・学習交流の場(部屋)と設備の確保【2】
- ・学習活動情報アーカイブの充実【3~】
 - : 学習活動の成果物の展示保管コーナーや寄せ書きコーナー等の整備により、学校間 や世代間の交流を促進



2-3 重点テーマ3 [より多くの人に伊江の魅力を伝える]

1) アクションプラン総括シート

重点テーマ3	より多くの人に伊江の魅力を伝える				
	│ ~ショートステイ旅行者の誘致~				
概要・ねらい		軽に楽しめる離島」として、まずはショート			
	│ │ステイで訪れていただき、自然や食、体馴	 検を存分に楽しんでもらえるよう、快適な移			
	┃ ┃動環境の整備や、誰かに話したくなる特別	別な体験、記憶に残る空間演出の充実を図り			
	 ます。				
	そしてはじめてのショートステイで魁	力を知っていただき、リピーターになって			
	いただけるようなサービスを提供します	0			
ターゲット	・海洋博公園を訪れている県内外の日本				
	・20~30 代の女性(女性同士のグルーフ	゚゚゚、カップル)			
	・女性シニア層(女性同士、夫婦、親子)			
訴求ポイント	・意外と近い離島というお手軽感				
	・視覚的な楽しみ(絶景、夜景、花、し	つらえ 等)			
	・ワザワザ足をのばそうと思う特別感、唯一無二感				
	・早い段階での情報提供(旅行計画時のトッピングメニューとして)				
収益化方策	・短時間滞在となるため、土産物を中心に軽食やショートプログラムの体験料等を収				
	益源とします。				
	重点施策	具体プロジェクト			
施策 7 い	つでもどこでも花を楽しめる島	・ハイビスカス巨大迷路 ・フラワーパスプロジェクト			
		・ハイビスカス園の機能強化			
施策 13 島	民に愛された郷土のごちそうが食べ	・100%伊江島産スイーツ&カクテル開発			
S	れる島	・100%伊江島産ファーストフード開発			
施策 14 思	い出に残る唯一無二の食体験	・い一しま市 ・農作物・海産物等の収穫・加工体験			
施策 15 五	惑と記憶にうったえる空間演出	・ランタンフェスティバル			
施策 16 記憶	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	・集客の拠点における香りの演出 ・SNS や動画共有サイト等を活用した視覚			
旭泉(0 高店)	息これひ フト 情報状噌	情報の発信			
	・発地の商業店舗と連携したキャンペースを表現した。 ・発地の商業店舗と連携したキャンペースを表現した。				
施策 18 島	の風を感じながら手軽に島を巡れる	・トラクタータクシー			
乗	乗り物づくり ・				
施策 19 移	動のストレスを軽くする島へのアク	・フェリーの増便			
セ	ス強化	・海洋博公園からの直通連絡船就航 ・伊江島へのアクセスに関する情報の充実			
施策 20 つ	いつい手に取りたくなるお土産開発	·『しまむん土産』の充実 ・記憶に残るユリのアロマグッズ開発			
		・タッちゅんグッズの充実			

	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■				
施策7	いつでもどこでも花を楽しめる島				
具体	■ハイビスカス巨大迷路				
プロジェクト	 新たな集客施設となるハイビスカス巨大迷路を修学旅行生等と一緒につくります。				
	・ハイビスカス迷路設計・整備【1】				
	・ハイビスカスの植樹【1~】				
	: 修学旅行生の学習活動の一環としての植樹も企画				
	■フラワーパスプロジェクト				
	んなで進めます。				
	· 花の配置計画【1】				
	: 歩道や民家等の島全体に花を増やすための花の配置方法を計画 (観光スポットに続				
	く道から始めるなど、無理なく始められる計画を立てる)				
	· 花の植栽【1~2】				
	:修学旅行生のボランティア活動の一環として植樹を実施				
	:村民の協力のもとに民家にも植樹を実施				
	・フォトスポットの選定・整備【2】				
	・フラワーパスのコース、マップの作成【3】				
	■ハイビスカス園の機能強化				
	今後機能強化のための改修が予定されているハイビスカス園について、下記の方策に				
	より集客アップを目指します。				
	・夏場に楽しんでもらえるしくみづくりの検討【1】				
	・写真撮影用レンタルグッズの提供【2】				
	:ハワイアンドレスやかりゆし等を貸し出し、ハイビスカスとコラボレーションする				
	ことでフォトジェニック感を演出				
	・ハイビスカスの生態や島で見られる花を展示した植物園エリアの整備【3】				
	・ハイビスカスフラワーアートプログラム整備【3】				
	:花を用いた造形やデザイン、ハイビスカス染め等のアート体験				
基本	植栽協力者 整備協力 ハイビスカス巨大迷路				
スキーム	植栽協力者 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □				
	植栽協力者 (材果) 7ラワーパスプロジェクト協力者 (材果) 20~30 代の女性、				
	(村民) 整備協力 (婦人会、老人会、子ども会等) 女性シニア層 グッズ				
	貸衣装会社 提供 ハイビスカス園				
	運営者 運営者				
関連	・フラワーアイランドとして、旅行者に花の魅力を十分に楽しんでもらうために、自生				
タスク	種、園芸種を問わず島内で見られる花の種類や特徴、開花時期等がわかる資料やガイ				
	ドウォーク等の取組も検討します。				

島民に愛された郷土のごちそうが食べられる島

具体

■100%伊江島産スイーツ&カクテル開発

プロジェクト

伊江島に行ってみたくなる旅の目的となるような、100%伊江島産にこだわった季節ごとのスイーツやカクテルを開発します。

- ・伊江島や沖縄ならではのスイーツやお酒を使ったフォトジェニックな商品の開発 【1】
 - :城山沖縄ぜんざい、イエラムシーズンズカクテル 等
- SNS 等での発信【1】

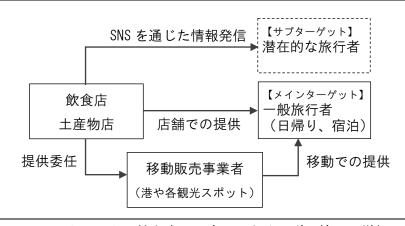
■100%伊江島産ファーストフード開発

ショートステイの旅行者が島滞在中に観光しながら気軽に食べられる 100%伊江島産にこだわったファーストフードを開発します。

また、ついつい腰かけて食事をしたくなるような休憩スポットを島中につくって、散策 の楽しみをつくります。

- ・伊江島の特産品を使ったファーストフードメニューの開発【1】
 - :島バーガー、イエソーダフロート(城山型のジェラートをのせる) 等
 - :「産業まつり」でコンテストを開催し優秀作品のレシピを村全体で共有するなど、 開発に参加したくなるようなしくみを検討
- ・フォトジェニックな場所の選定とベンチ設置等、飲食スペースの充実【2】
- ・移動販売等のしくみづくり【3】

基本 スキーム



関連 タスク

・ファーストフードは持ち歩いて食べるため、ポイ捨ての増加につながる恐れがあることから、包装紙を使用しない商品、生分解性の容器の使用、容器のデポジット等、対策を講じます。

思い出に残る唯一無二の食体験 施策 14 ■い一しま市 具体 プ゜ロシ゛ェクト 伊江島でとれた海の幸や山の幸を集めた市を開催します。野菜や魚だけでなく、島の食 材を使った加工品等(惣菜、おやつ 等)も販売することで、旅行者や村民でにぎわう市 を目指します。 市会場の選定【1】 ・市出店者の募集【1】 ・市の開催(開催時間や回数等については、ターゲットや供給体制を踏まえ検討)【2】 ■農作物・海産物等の収穫・加工体験 伊江島でとれる農作物・海産物等の収穫・加工等の体験プログラムを提供します。 協力者の募集【1】 ・体験のプログラム作成【2】 :婦人会による大豆・小麦料理教室、各種食品加工場での見学・体験、収穫体験 等 体験の開催【3】 基本 スキーム 提供 出品 農家・漁家 い一しま市 出品 食材提供 【メインターゲット】 婦人会 -般旅行者 体験提供 食品加工工場 (日帰り、宿泊) 体験提供

五感と記憶にうったえる空間演出 施策 15 具体 ■ランタンフェスティバル プ ロシ゛ェクト 白い砂浜に宿る小さな光を島内外から楽しめる幻想的空間を演出します。 ・村民参加型のランタン制作やフェスティバル運営のしくみづくり【1】 ・ランタンと村踊、ハロウィン、その他既存イベントを融合させた祭りの演出企画【2】 ・対岸地域との連携【2】 ■集客の拠点における香りの演出 船に乗った時、船を降りた時、イベント時等、ふとした瞬間にふわっと香る花の演出を します。 ・効果的な演出場所(化粧室、エントランス、船室、土産物屋 等)と演出方法(アロ マオイル、ミスト、商品への香り付け 等)の検討【1】 ・ユリを中心に、演出場所や演出方法に合わせた「花の香り」選定【1】 ・集客拠点の入口にユリの植栽【2】 基本 環境演出 環境整備· スキーム ランタン制作者 プログラム提供 ランタンフェス ティバル運営者 【メインターゲット】 村踊出演者 20~30 代の女性 出演 アロマ開発 【サブターゲット】 加工業者 海洋博公園を訪れて (ユリアロマ開発) いる県内外の日本人 ▶|香り演出協力施設 個人旅行者 ユリ生産者 環境整備 ・ランタンフェスティバルの規模拡大や継続開催にあたっては、「廃油ランタン」等、 関連 タスク 環境への配慮した工夫を検討します。(食用油の再利用の場合、つくり方を公開して 各家庭の協力を得られると規模を拡大しやすい)

記憶と結びつく情報戦略

具体 プロジェクト

■SNS や動画共有サイト等を活用した視覚情報の発信

各種観光関連事業者や村民等の伊江島にかかわる一人ひとりが、宣伝員となって伊江 島の魅力を発信します。

また、イベント等にあわせて、旅行者からみた伊江島の魅力を発信してもらえるような キャンペーンをうつことにより、潜在的な伊江島への旅行需要を掘り起こします。

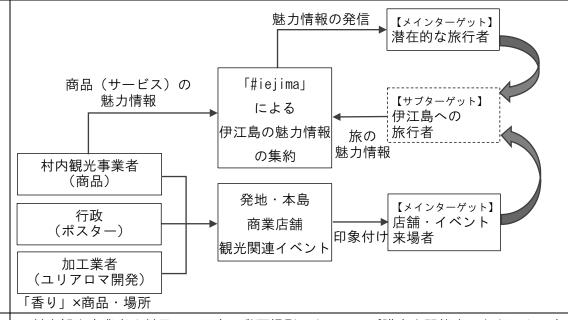
- ・村内観光事業者が連携して行う、それぞれの商品(サービス)の魅力が伝わる「#iejima」を付けた写真・動画の SNS への投稿(伊江島情報の拡散)【1~】
- ・集客イベント等にあわせた「#iejima フォト日記キャンペーン」の展開【2】
 - : 旅の始まり時点で旅行者に旅の流れに沿った写真・動画等の SNS への投稿を依頼 (旅全体の楽しみを発信することで、まだ本村へ来たことのない旅行者に旅を疑似 体験してもらう。)
 - ※「花づくしの旅」、「海洋博公園と伊江島の欲張り旅」等、テーマを持たせる
- ・情報を効果的に拡散する方法の検討(情報拡散力をもつ人のモニターツアー実施等)【2】

■発地の商業店舗と連携したキャンペーン展開

伊江島の商品を取り扱っている県外の商業店舗や、県外や本島で開催される観光関連 イベント(物産展、旅情報展 等)において、記憶を呼び起こすしかけとして「香り」を 使ったプロモーションを展開します。

- 伊江島のユリアロマ開発【1】
- ·「香り」×「情報」による記憶に残る情報発信【2~】
 - : 伊江島を代表する花のひとつである「ユリ」の香りのするアロマを店舗・イベント 会場や商品、ポスター等に吹き付けることで、「ユリの香り=伊江島」という印象 付け

基本 スキーム



関連 タスク ・村内観光事業者や村民への写真・動画撮影スキルアップ講座を開催するなど、より高い効果を得るための方法も検討します。

島の風を感じながら手軽に島を巡れる乗り物づくり

具体

■トラクタータクシー

プ゚ロジェクト

旅行者にとっての非日常を楽しみながら移動できる交通手段として、島の暮らしの中では当たり前のように見られるトラクターのタクシーとしての活用の可能性を検討します。

- ・制度および事例研究(公道における特殊車両による客車牽引、旅客送迎に関する特区制度、保険 等)【1】
- · 実証実験【2】
- ·協力企業誘致(本格運航開始)【3】

■レンタルゴルフカート

風を感じながら、家族連れの旅行者でも気軽にゆったりと移動できる交通手段として、 ゴルフカートの活用を検討します。

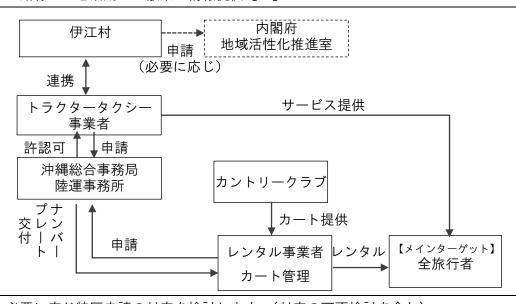
- ・事例研究【1】
- ・車両の整備、協力企業誘致および試験運行【2】
- ·本格運行開始【3】

■路線バスの観光利用拡大の可能性検討

路線バスのルートにおいて旅行者が楽しめる資源を発掘し、村の暮らしを楽しむ路線 バスの新たな活用方法を検討します。

- ・路線バスのルート上の観光資源の調査【1】
- ・路線バスを活用した散策の情報提供【2】

基本 スキーム



関連 タスク ・必要に応じ特区申請の対応を検討します。(対応の可否検討を含む)

移動のストレスを軽くする島へのアクセス強化

具体

■フェリーの増便

プ ロシ゛ェクト

現状1日4便のフェリー運行回数を1日5便に増やし、旅行者・村民双方の利便性を高めます。

- ・5 便運行に向けた経営体制の検討(人員配置 等)【1】
- ・夏季5便での試験運行および検証【1】
- ・年間を通しての5便運行の開始【2】

■海洋博公園からの直通連絡船就航

本村の対岸に位置し、年間 489 万人もの入園者のある海洋博公園からの日帰り観光を促すため、直通連絡船就航に向けた検討を進めます。

- ・就航候補地の検討・調整【2】
- ・運行条件の整理【3】
- ・事業者の誘致および試験運行→本格運行【4以降】

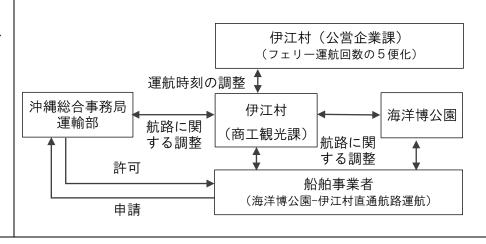
■伊江島へのアクセスに関する情報の充実

現状、伊江島への移動はフェリーに限られますが、フェリーの運行情報や本部港までのバスの運行情報等が一元化されておらず、海洋博公園への来場者等が伊江島に興味を持っても、訪れづらい状況にあります。

そうした状況を改善するため、北部地域への移動中に伊江島を認知できるようなしく みを検討するとともに、バス・フェリーの乗り継ぎや滞在時間ごとのおすすめ観光ルート を紹介することにより、訪れやすい環境をつくります。

- ・北部地域への移動中に伊江島を認知できるようなしくみの検討【1】
- ・紹介する情報の検討【1】
- ・海洋博公園等へのパンフレットや看板等の設置【1】

基本 スキーム



ついつい手に取りたくなるお土産開発

具体

■『しまむん土産』の充実

プ ロシ゛ェクト

伊江島の食材や植物等の材料を使って、島独自のお土産品を開発販売し、伊江島でしか 手に入らないお土産で伊江村の魅力を伝えます。

- ・商品開発として活用できる島の材料を探求・選定【1】
- ・新たな島の材料による加工品開発【1】
- ・伊江島の特産品(伊江島牛、黒糖、じーまみ、島らっきょう、ラム酒 等)を組み合わせた商品開発【2】
- ・販売先の確保【1~3】

■記憶に残るユリのアロマグッズ開発

香りで伊江島での旅の思い出が思い浮かぶすようなアロマを商品開発します。

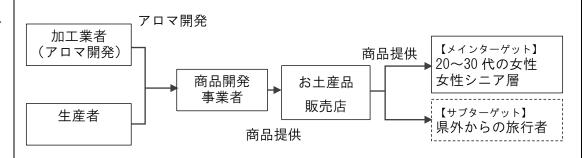
- ・伊江島ブランドの芳香の開発【1】
- ・お土産品等(アロマオイル、キャンドル 等)の商品開発【1】
- ・販売先の確保【1~3】

■タッちゅんグッズの充実

お手軽感、おしゃれ感、かわいさ等、子どもや女性の多様な感性に合わせたグッズ開発 を行います。

- ・修学旅行生でも買いやすい 1,000 円以下のグッズ開発【1】
- ・タッちゅんのキャラクターを活かした、かわいい系グッズ開発【2】
- ・デザイナーとのコラボにより、おしゃれ、かつ「タッちゅん」をイメージさせる帽子 やかばん等の身につけるグッズ開発【3】

基本 スキーム



関連 タスク

・作成する過程も楽しむような体験メニューとの連携も検討します。(ハイビスカスの ハーバリウムづくり 等)

資料編



伊江村観光振興基本計画の検討経過

日時	会議名	議題
平成29年10月18日	平成 29 年度	1. 伊江村観光振興基本計画について
午後 1 時 30 分	第2回 伊江村観光振興推進協議会	1)計画の概要説明
~3時30分		2) 伊江村観光を取り巻く状況の共有
		3) 伊江村観光の目指すべき方向性の
		検討し、部合の運営士会
		4) 部会の運営方針 2. 伊江村民泊サイト整備事業について
平成29年10月19日	 庁内ワーキンググループ	1. 伊江村観光振興基本計画について
午前 10 時 00 分		1)計画の概要説明
~12 時 00 分		2) 庁内ワーキング運営方針説明
", ", ",		3) 伊江村観光を取り巻く状況の共有
		4) 伊江村観光の目指すべき方向性お
		よび取組の検討
平成29年10月19日	伊江村観光振興推進協議会 部会	1. 伊江村観光振興基本計画について
午後 1 時 30 分		1)計画の概要説明
~3時30分		2) 伊江村観光を取り巻く状況の共有
		3) 伊江村観光の目指すべき方向性の
		共有
		4) 観光に関する各団体の取組状況・
		課題の共有
亚出 20 年 10 日 21 日		5) 伊江村観光の強み・弱み 1. 伊江村観光振興基本計画について
平成29年12月21日 午後1時00分	伊江村観光振興推進協議会 部会 	1. 伊江村観光振興基本計画について 1) 観光振興の戦略および施策
~3時00分		2) 早期に取り組む施策の具体化検討
平成29年12月21日	 庁内ワーキンググループ	1. 伊江村観光振興基本計画について
午後3時00分	73137 (2)734	1) 観光振興の戦略および施策
~5時00分		2) 早期に取り組む施策の具体化検討
平成29年12月22日	平成 29 年度	1. 伊江村観光振興基本計画について
午後 1 時 00 分	第3回 伊江村観光振興推進協議会	1)基本理念とキャッチフレーズ
~3時00分		2) 数値目標の設定
		3) 観光振興の戦略および施策
		4) ロゴマークの設定方針
平成30年3月5日	伊江村観光振興推進協議会 部会	1. 伊江村観光振興基本計画について
午後1時00分		1)マスタープラン
~ 3 時 00 分		
平成 30 年 3 月 5 日	庁内ワーキンググループ	1. 伊江村観光振興基本計画について 1、フスカープラン
午後3時30分		1)マスタープラン
~5時30分 平成30年3月6日		 1. 伊江村観光振興基本計画について
平成 30 年 3 月 6 日 午後 1 時 30 分	平成 29 年度 第4回 伊江村観光振興推進協議会	1. 伊江州観元振興基本計画に りいて 1) マスタープラン
~3時30分	おっぱ バル竹既心派光性に励成去	2) アクションプラン
O HJ 00 /J		



伊江村観光振興推進協議会

2-1 委員名簿

役 職	団体名及び職名
会 長	村長
副会長	(一社) 伊江島観光協会 会長
委 員	村議会議長
委 員	副村長
委 員	教育長
委 員	村議会 経済・公営企業委員会 委員長
委 員	村商工会 会長
委 員	伊江漁業協同組合 組合長
委 員	沖縄県農業協同組合伊江支店 支店長
委 員	(有) タマレンタ企画 代表
委 員	(株) 伊江島物産センター 代表
委 員	伊江島観光バス・レンタカー(株) 代表
委 員	(株)伊江島交通 代表
委 員	(株) 伊江島カントリークラブ 代表
委 員	区長会(商工観光課担当)
事務局	商工観光課長

2-2 伊江村観光振興推進協議会設置条例

(趣旨)

第1条 伊江村の魅力ある観光の確立に向けて、農・漁業等の地域資源との連携やスポーツコンベンションなど総合的な観光振興を推進するために必要な事項を定めるため伊江村観光振興推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議事項)

- 第2条 協議会において協議する事項は、次のとおりとする。
- (1)観光の振興に関すること。
- (2) 観光振興計画の策定に関すること。
- (3) 観光地の整備及び開発に関すること。
- (4) その他、観光の推進に関すること。

(委員)

- 第3条 協議会の委員は次の各号に掲げる者のうちから村長が委嘱し、又は任命する。
- (1) 伊江村長、副村長及び教育長
- (2) 伊江村議会議長及び経済・公営企業委員会委員長
- (3)(一社)伊江島観光協会長
- (4) 伊江村商工会長
- (5) 伊江漁業協同組合長
- (6)沖縄県農業協同組合伊江支店長
- (7)区長会(商工観光課担当)
- (8) 村内観光関連企業に従事する者

(9) その他特に村長が必要と認める者

(仟期)

- 第4条 委員の任期は2年とする。ただし、各団体の長及び職名で委嘱又は任命された委員については、 その職務の任期とする。
- 2 欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

- 第5条 協議会に会長1名、副会長2名をおく。
- 2 会長は村長をもってあてる。
- 3 副会長は村議会議長及び伊江島観光協会長をもってあてる。
- 4 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。 (会議)
- 第6条 協議会の会議は必要に応じて会長が招集し、会議の議長となる。
- 2 協議会は、委員の過半数が出席なければ開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。 (意見の聴取等)
- 第7条 会議において必要があるときは、関係者の出席を求め意見を聴取し、又は、必要な資料の提出 を求めることができる。

(その他部会等)

- 第8条 協議会は、幹事会並びに専門部会(以下「幹事会等」という。)を置く。
- 2 幹事会等の委員及び組織運営については規則にて定める。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、商工観光課において処理する。

(報酬)

第 10 条 委員及び第 8 条に規定するその他部会等の委員の報酬は、伊江村特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和 47 年条例第 50 号)第 2 条別表中その他の委員の日額報酬を支給するものとする。

(その他)

第 11 条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮り、別に定める。

附則

この条例は、公布の日から施行する。

2-3 伊江村観光振興推進協議会設置条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、伊江村観光振興推進協議会設置条例(平成28年伊江村条例第68号)第8条第2 項に規定する事項について定める。

(幹事会)

- 第2条 幹事会は、専門部会で検討された事項について協議を行い、協議会で審議する事項を決定する。
- 2 幹事会の幹事長は副村長とし、幹事長が幹事を招集し、会議の議長となる。

- 3 幹事は、別表第1に規定する委員で構成する。 (専門部会)
- 第3条 専門部会は、伊江村観光振興推進協議会設置条例(平成28年伊江村条例第68号)第1条に規定する伊江村の魅力ある観光の確立に向けて、農・漁業等の地域資源との連携やスポーツコンベンションなど総合的な観光振興を推進するために必要な実務について協議、検討を行う。
- 2 専門部会は、観光部会と民泊部会を組織し、委員は別表2に規定する関係団体及び行政機関の実務 に携わる職員を、伊江村観光振興推進協議会の会長が委嘱し、又は任命する。
- 3 各専門部会において、部長1名と副部長1名を互選により選任する。
- 4 各専門部の会議は、部長が召集し、会議の議長となる。
- 5 観光部会は、観光全般に関することについて検討を行う。
- 6 民泊部会は、民家宿泊体験事業に関することについて検討を行う。

附 則

この規則は、伊江村観光振興推進協議会設置条例(平成28年伊江村条例第68号)施行の日から適用する。

別表1(第2条関係)

役職	職名			
幹事長	副村長			
幹事	観光部会 会長			
幹事	観光部会 副会長			
幹事	民泊部会 会長			
幹事	民泊部会 副会長			
幹事	総務課長			
幹事	政策調整室長			
幹事	農林水産課長			
幹事	商工観光課長			
幹事	公営企業課長			

別表2(第3条関係)

,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	リスは水/
観光部会	(一社)伊江島観光協会
	伊江村商工会
	伊江漁業協同組合
	(観光部会を含む)
	沖縄県農業協同組合伊江支店
	(有)タマレンタ企画
	伊江島ダイビング協会
	(株)伊江島物産センター
	Y Y Y クラブ i E リゾート
	伊江島観光バス・レンタカー(株)
	(株)伊江島交通
	(株)伊江島カントリークラブ
	伊江島ビーチサイドホースパーク
	わくわくクラブIN伊江島
	城山・旅行村売店
	区長会(商工観光担当)
	総務課 課長補佐
	政策調整室 室長補佐
	公営企業課 課長補佐
	商工観光課 課長補佐
民泊部会	(一社)伊江島観光協会
	(一社) 伊江島観光協会 民泊部会
	(株)こころ
	(株)こころ 民泊部会
	(有)タマレンタ企画
	公営企業課 課長補佐
	商工観光課 課長補佐



庁内ワーキンググループ

3-1 参加者名簿

本計画の策定にあたっては、伊江村観光振興推進協議会および部会での検討に加え、伊江村役場内の若手職員(有志)による庁内ワーキンググループを開催し、具体プロジェクト等の検討を行いました。

以下に、参加者の構成を示します。

所属	人数
住民課	1名
政策調整室	3名
農林水産課	1名
建設課	1名
福祉課	2名
総務課	1名
教育委員会	1名
医療保健課	1名
商工観光課	4名

伊江村観光振興基本計画

発行 : 伊江村/平成30年3月編集 : 伊江村 商工観光課

